



60th

横浜勤労者福祉協会

60年のあゆみ

1953年～2013年

公益財団法人横浜勤労者福祉協会(汐田総合病院)
60周年記念実行委員会

新しい横浜勤労者福祉協会のgroup vision

2013年春 制定

無料低額診療事業所として、医療福祉介護にわたる総合サービスを提供し
共同組織とともに地域の患者・利用者の生活を支える

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

-
- 一. 人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
 - 一. 地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
 - 一. 学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
 - 一. 科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
 - 一. 国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
 - 一. 人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります
-

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日
全日本民主医療機関連合会
第39回定期総会

60th

横浜勤労者福祉協会

60年のあゆみ

1953年～2013年

あいさつ

理事長
よこはま健康友の会 会長

窪倉 孝道 2
宮下 泉 4

60周年に よせて

名誉理事長

野末 侑信 5

お祝いの 言葉

神奈川県病院協会 会長
神奈川県医療福祉施設協同組合 理事長
神奈川県民主医療機関連合会 会長

長倉 靖彦 6
田中 達三 7
堀内 静夫 8

私と汐田 総合病院

理事長
うしおだ在宅クリニック 所長
元外科医師
外科部長
清水ヶ丘セツルメント診療所 所長

窪倉 孝道 9
塩田 純一 12
安達 隆 13
大阿久俊郎 13
井上 憲治 14

年表

1953～2013年

..... 15

資料編

公益財団法人概要
病院・診療所・老健のご案内 49
法人グループ施設
患者数推移

ごあいさつ

巻頭の辞

公益財団法人横浜勤労者福祉協会 理事長 窪倉 孝道



私ども公益財団法人横浜勤労者福祉協会は、今年創立60周年を迎えます。この間、多くの皆さんからご支援・ご援助いただきました。代表して心から御礼申し上げます。

1953年12月、鶴見区下野谷町に医師1人、看護師1人、事務1人の小さな「汐田診療所」が誕生しました。鶴見地区の労働組合や民主団体など働く人々と地域の皆さんの期待と熱意によってこの診療所は出発しました。開設当初は、診療時間の表示もなく、いつでもどうぞという診療体制で奮闘し、地域の皆さんの信頼を勝ち取っていきました。翌年には有床診療所となり、7年後には、32床の「汐田病院」となりました。内科、外科、小児科、産婦人科、放射線科を標榜していました。

高度経済成長時代（60年代中頃～70年代）、社会がめまぐるしく変わり、国民の疾病構造が大きく変化していく中で、汐田病院は、時代の流れを受け止めながら、切実な地域の要求に応える医療活動に邁進しました。全職員参加の疾患別グループ活動、労災、公害、被爆者医療、老人健診の取り組み、低所得者、生活困難者への対応も強め、社会福祉事業法に基づく「無料低額診療事業」を1965（昭和40）年から開始しました。友の会が1974年に結成され、友の会を中心とした地域の皆さんの協力で、病院の増改築工事を行い、142床の病院となり、区内の救急医療を担う、当時の中核的病院へ発展しました。

高度経済成長が終わり、「福祉見直し」「日本型福祉社会」論の登場とともに、医療・社会保障制度の

改悪が進められました。その中で、汐田病院は、脳卒中をはじめとする脳血管障害の医療活動を開始し、その他専門外来の強化にも努めました。1987年に「汐田総合病院」となりました。また、汐田歯科診療所（1979年開設）、梶山診療所（1979年開設）、清水ヶ丘セツルメント診療所（1982年法人合併）、汐田理学診療所（1986年開設）、みどり野診療所（1997年法人合併）など、診療所の開設や合併で医療活動を広げていきました。「共同組織」として位置づけられ友の会は、毎年会員を大きく増やしていきました。

2001年4月、汐田総合病院は、現在の鶴見区矢向に新築移転しました。高齢化社会に備える為の「社会保障改革」が進められる中で、介護保険事業がスタートし、横浜市東部中核病院の開業を軸とする地域医療の再編がこの間に進められてきました。私たちは、社会福祉法人うしおだを2002年に立ち上げ、今後の介護事業への本格的な準備を開始しました。新築移転した汐田総合病院は204床の急性期病院としてスタートしましたが、回復リハ病棟の開設、療養病棟の増築、うしおだ在宅クリニックと訪問看護ステーション三ツ池を病院門前に開設するなど、政策的な動向や社会背景、地域医療情勢の変化の中で、「無差別平等」理念を貫きながら医療から介護・福祉にわたる総合ケアサービスを提供する施設（群）へと変わってきました。地域の高齢化が進み、在宅患者が増えていく中でのニーズに対応しながら、ケアからケアへと事業活動を広げてきました。この方向性をより明確にするため、昨年うしおだグループビジョンとして、「無料低額診療事業と

して、医療福祉介護にわたる総合サービスを提供し、共同組織とともに地域の患者・利用者の生活を支える」を決定しました。

60年を振り返りますと、3人から出発し、常勤職員600人、非常勤職員を含めれば1,000人を超える4つの法人と2万2千世帯の「よこはま健康友の会」に発展した原動力は、第一に、無差別平等の理念に基づく医療介護福祉事業が多くの方々に受け入れられたこと。第二に、職員一人ひとりのがんばり。第三に、友の会をはじめとする地域の方々の物心にわたるご支援があったことだと思います。

国は本格的な高齢多死社会に向かう準備を急ピッチで進めています。社会保障費総枠の伸びを抑制しながら、医療介護供給体制の整備と再編を全体的に進め、医療から介護へ、病院から在宅への流れを加速させようとしています。私たちは、「守るべきもの」を守りながら、こうした情勢の変化に対応する「自己変革」する組織としてあり続けることが今後必要だと考えています。

今回、法人創立60年を記念して、その歩みを年表としてまとめました。この間の歴史と到達を、職員、友の会・地域の皆さん、これまでご支援頂いた方々と共有し、今後の一層の努力と連帯を誓う機会にしたいと思います。



ごあいさつ

これからも共に安心して住み続けられる まちづくりを目指して

よこはま健康友の会 会長 宮下 泉

創立60周年おめでとうございます。

労働者の街、鶴見の下野谷の地で「働くものの医療機関を」「いつでもだれでも親切でいい医療をうけたい」という住民の切実な要求を小さな診療所として実現させ、往診を要求されると医師がオートバイで飛んでいく、共同してつくりあげた住民には「おらが診療所」と思われ、「今日は何人の患者さんがみえたぞ」と当初は毎日来院の患者さんの数を数え、1日1日患者さんが増えていくことに充実感を感じ、お祝いをしながら日々の診療をつづけて60年、地域医療の先端で住民のいのちと健康を守る活動をつづけてこられた皆さんに心から敬意を表します。

小児麻痺の流行を抑えるために緊急に生ワクチンを輸入させる運動をはじめ、ぜんそくなど公害対策への取り組み、労災・職業病をなくす取り組み、老人医療費の無料化の取り組みなど、つねに命やくらしを脅かす悪政と立ち向かった中での輝かしい活動でした。また、いち早く訪問看護に取り組み、訪問入浴制度を実現したことも画期的なことでした。

さらに介護福祉分野にも力をそそぐ事によって、汐田総合病院が「医療から在宅ケア」までの総合ケアセンターとして確立されてきましたが、これがこの間の医療分野に吹き荒れる嵐の中をのりこえなが

ら、共同組織とともに発展的に進めてこられたことに大きなよろこびを感じています。

現在、共同組織は2万2千を越えるところまで到達しました。この組織が文字通り数万の共同組織となるのが法人にとっても強く求められています。それを実現するためには、貧困と格差が広がっている現在の社会情勢のなかで、「無料低額診療施設」の役割を十分に発揮し、それができる環境もつくりながら、民医連の組織方針である1病院20,000、1診療所は3,000という共同組織の拡大目標に向かって、友の会が民医連のパートナーであるとともに市民運動団体という位置づけをしっかりと定着させ、「民医連のすべての活動は共同組織とともに」の実践をさまざまな取り組みを探求しながら前進させていかなければならないと思います。

これからも一層、役職員・共同組織が一丸となって次のステップにふみだしていくことを強く期待しています。創立60周年という節目を契機に、安心して住み続けられるまちづくりを一層発展させていきましょう。



友の会 とは

よこはま健康友の会は、横浜勤労者福祉協会のグループ事業所とともに、誰にでも優しい安心して住み続けられるまちづくりを進め、地域での医療・介護のネットワークづくりに取り組んでいます。

友の会に入ってみんなイキイキ、“こころ平和に、からだ元気に” 地域での健康づくり、まちづくりを進めましょう。

60周年によせて

60周年記念の年表に 自分の60年を重ねて読み解く

公益財団法人横浜勤労者福祉協会 名誉理事長 野末 侑信



2013年は、汐田診療所の開設から60周年にあたる。それを記念して、この60年間の年表を作成するという計画を窪倉理事長から報された。

開所の時は、1953年12月1日であるが、その時21才の私は、横浜市大医学部1年生であった。思うに、この60年間の年表の中味は、そのまま成人移行の私

の60年間と重ねて読み解く事ができると、今から楽しみである。

事務長だった栗原明氏や、外科の安達隆先生など、私と似たような立場で、この年表を手にするであろう先輩方に思いを馳せながら、秀れた年表の完成を心待ちにしている。

(2013年8月)



お祝いの言葉

汐田総合病院 創立60周年に際して

神奈川県病院協会 会長
横浜掖済会病院 病院長
横浜市立大学医学部 臨床教授

長倉 靖彦



汐田総合病院創立60周年、誠にありがとうございます。

1953年12月鶴見区下野谷町に汐田病院の前身である汐田診療所が開設され、有床診療所を経て、1960年5月に汐田病院となり、1987年204床の汐田総合病院に発展、2001年4月には、鶴見区矢向の地に新築移転、現汐田総合病院として新たなる出発を遂げております。

この60年間、国の医療体制の激変も度々あり、平坦な道程ではなかったと想像します。本当に御苦労様でした。

2001年4月の現病院開設記念パーティー及び2006年4月の療養病床開設記念パーティーにて、横浜掖済会病院病院長、横浜市立大学医学部臨床教授として、御祝いの挨拶をさせて頂いたのが、つい昨日のような気がします。

思い起こせば、私が横浜市立大学第三内科（現消化器内科）医局長時代（1980年台）から、下野谷町の汐田病院に一般内科外来、糖尿病外来、夜間診療等に医師派遣をしてきました。私自身も、外来診療、内視鏡・腹腔鏡検査のお手伝いをさせて頂きました。野本先生と隣り合わせで外来をした記憶があります。特に、梶山診療所の立ち上げの際は、外来枠を全て大学からの医師で埋め、しっかりした病診連携を築きあげました。自然豊かな三ツ池公園の周辺では、診療所の裏山からマムシが出没することもあり、抗血清も用意しておりました。また、私が病院長を勤める横浜掖済会病院から、森隆内科部長が

赴任し、及び内科外来診療・消化器内視鏡検査の医師が、非常勤ですが、現在も引き続き診療に携わっています。医師不足の折、少しでも汐田総合病院のお役に立てればと思慮しています。

汐田総合病院の規模も年々拡大し、一般病床・障害者病床・回復期リハビリテーション病床・療養病床等の病床数も261床と増加、及び介護老人保健施設も病院内に設置しています。

汐田総合病院の医療、福祉、介護に於ける姿勢としては、救急医療・急性期医療、回復期リハビリテーション、療養病床、高齢者医療、在宅医療、介護老人保健施設等、急性期医療から慢性期医療、介護迄を包括した地域完結型の総合的医療提供病院を目指していることが視えます。更にCTスキャン、MRI等の新機種導入、禁煙外来開設、医師臨床研修、PACS・Ordering・電子カルテ等のIT化システム、医療機能評価認定、DPC運用等、常に病院のソフト・ハード両面での変化に対応し、現在から将来を見据えている医療経営ビジョンには敬服しています。汐田総合病院が謳っております病院理念の「医療・福祉・介護にわたる総合的なサービス提供を通じて、患者様との協同、患者様の信頼と納得、無差別平等を追求します。」を実践して、窪倉理事長の許、今後更に、地域医療に貢献し、近代的な総合病院として、前進される事を期待しています。

神奈川県病院協会としても、出来る限りの協力をして行きたいと思っております。

お祝いの言葉

60年のあゆみに寄せて

神奈川県医療福祉施設協同組合 理事長 田中 達三



1953年（昭和28年）12月1日に汐田総合病院の前身である汐田診療所が横浜市鶴見区内に設立されてから60周年を迎え、記念年表を作成されましたことは、誠に素晴らしいことであり、心からお慶び申し上げます。

記念年表を作成することは過去のできごとや先達のご苦労に思いをいたすことであり、時代の変化、社会情勢が激動する中で公益財団法人 横浜勤労者福祉協会の働きを検証することでもあります。人権を守り、人びとのいのちと健康を守るという理念に徹し、実践したことを確かめて、その有形無形の財産を将来に引き継いでいくことであり、堅実な仕事ができなかったところにはこのような企画ができるものではないと思います。

汐田診療所開設当時は朝鮮戦争の特需景気で日本経済の活気をみておりましたが、一方、街には身の置き所もない人々がおりました。私はその当時、縁あって無宿勤労者の宿泊施設に勤めておりました。この施設は本人の責めのみには帰せられない不運な人々が戦災、外地からの引き揚げ、失業、貧困など、駅や広場で寝泊まりしていた人々が入っていた施設でそこでの日常生活に思いを馳せました。汐田診療所開設の時代背景の一つでもあろうかと思えます。私はこの拙稿を書くに当たって、「汐田総合病院新築移転10年史（2001～2010）」を拜見しました。まさに60年の集大成を知る思いでした。新しい地域に進出した先見と決断、理念を共有した職員、最新の医療機器の導入、看護師の確保などで医療態勢の向上をはかり、24時間救急診療、予防からリハビリテー

ションまでの一貫した医療を行っていることに汐田総合病院の堅実な働きを知りました。さらに、2008年（平成20年）には総合ケアセンターを発足させております。医療と介護が制度の域内に止まらず、連携して高齢者や退院した人びとの在宅ケアを進め、より良質な生活環境が保持されなければならないことは福祉医療が直面している大きな課題であります。汐田総合病院は持てる力を結集し、又同じ方向を目指す外部の力とも共同してこれからも医療と介護の提携を強めて地域福祉に寄与していくことを目指しておりますことに、敬意を表してやみません。

汐田診療所の創立に遅れて7年、1961年（昭和36年）に社会福祉法に基づく、生計困難者のために無料又は低額の料金を診療を行っていた病院、診療所の経営主体である社会福祉法人などが参加して「神奈川県医療福祉施設協同組合（医療協）」が設立されました。医療協は、社会経済情勢が変動するなかで「無料又は低額の診療」の在り方などを確かめ合い福祉医療を促進し、設備資金や運転資金の貸付、物資の共同購入などの経済活動をしております。無料低額診療事業の対象者としては、失業、貧困、高齢、家庭崩壊、ホームレスなどの生活困窮者に注視せざるを得ません。国等公の方もこのことを注視しなければならない切実な問題と考えます。公益財団法人横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院は「医療協」の会員としてこの局面打開に先導的なお働きをして頂いておりますことに深い感謝をこめて拙稿を結びます。

お祝いの言葉

創立60周年記念誌に寄せて

神奈川県民主医療機関連合会 会長 堀内 静夫



横浜勤労者福祉協会創立60周年おめでとうございます。

戦後間もない1953年、横浜鶴見の地に産声を上げた横浜勤労者福祉協会は、地域に欠かせない医療機関として大きな実績と歴史を積み上げて発展してきました。その間の地域の皆さんと職員のご尽力とご努力に対し、心からの賞賛と感謝の意を表したいと思います。

2001年4月に移転した新汐田総合病院は地域の中核病院として大きな役割を果し、また、民医連綱領に基づいた無差別・平等の医療福祉の実現に力をそそいでいただきました。さらに、研修指定病院として研修医の教育にも当り、看護師を始め、多くの職種の後継者を育成してきました。うしおだ診療所も昨年5月に新築・移転を果し、他の診療所やうしおだ老健やすらぎも併せ、人々のいのちと健康を守る医療機関として地域の信頼を集めてきました。

個人的には、私は1970年代から80年代にかけ、下野谷の旧汐田総合病院で週1回、整形外科外来を担当し、病棟のリハ評価会議にも参加させていただきました。当時も、患者さんの思いや気持ちに沿った医療や介護の実現に病院一体となって取り組んでおり、私の理想に近い医療を実践しているなど思い

ました。そのとき、知り合った患者さんや職員の笑顔を忘れることはできません。私自身、後ほど民医連の事業所に就職することができたのも、汐田総合病院の経験があったからだと思っています。

横浜勤労者福祉協会は神奈川民医連のためにも大きく貢献していただき、今日の発展の基礎をつくっていただきました。2年半前の東日本大震災の時は、多くの職員が被災地へ直接支援していただいた上、支援物質・義援金を送っていただきました。あらためて感謝したいと思います。超高齢社会を迎えた日本で、民医連の事業所の果す役割はますます大きくなります。厳しい情勢の中、医療・介護制度や社会保障の充実や憲法の平和的生存権を実現するとりくみや運動がますます大切になっています。神奈川民医連には142,400人の共同組織の方がおられ、2014年までに15万人をめざしています。私たちの強い味方です。ともに手を携えて、安心して住み続けられるまちづくりのため、そして、日本の未来と子どもたちのために前進していこうではありませんか。横浜勤労者福祉協会の60年の歴史と歩みをさらに大きく発展させ、民医連綱領の実現に向けて奮闘していただくことを願ってやみません。

私と
汐田
総合病院若き日のチャレンジから
患者さま・地域の方々と次の時代へ

公益財団法人横浜勤労者福祉協会 理事長 窪倉 孝道

若き日のチャレンジ
労働者のまち鶴見に脳神経外科を！

小生が汐田総合病院に入職して31年になりますが、法人開設の歴史は60年ですから小生はその半分の歴史しか語るできません。

1981年に弘前大学を卒業して神奈川民医連に入職したのは、民医連医療に熱意のある先輩医師への共感と共に、何よりも鶴見の地に新しい脳神経外科を開くという当時の汐田病院のchallengingな課題に共鳴したことが大きな動機でした。当時はまだまだ交通事故や労災による頭部外傷が多く、脳血管障害を外科的に治すというコンセプトが普及し始めた時代でした。新規導入したCTを最大限生かして、医師をはじめとして若い職員が昼夜を分かたず地域の脳神経疾患を広範に取り扱い、病院には荒削りな勢いが感じられる時代でした。開設を構想した先輩諸氏は、戦後の高度成長を京浜工業地帯で支えた労働者に脳卒中が増える時代を見越して、「内科・外科の枠組みを取り払った医師・看護師・放射線技師・

検査技師・リハ訓練士・事務などの多職種あがでのチーム医療で脳血管障害へ包括的に対応する」という、当時としては大変先進的な構想を抱いており、それが【脳血管障害センター】という名のもとに多くの若い医師やコメディカルを引き付け、汐田病院発展の土台を築く一つの要因になったと思います。

医療情勢の矛盾、患者さんの抱える
困難と向き合い、地域の方々の期待
に応えたい

しかし、【脳血管障害センター】が当時の病院で稼ぎ頭になっても、単なる専門病院へ変容特化をせず、地域の広範な人たちから期待される総合病院としてその後も発展できたのは、その折々の時代の矛盾と患者さん・住民の困難にしっかりと向き合っ、ニーズに総合的に応える医療活動の選択・向上と共に、医療制度の改善や安心してすみ続けられるまちづくりなどへも取り組む視点を忘れずにきたからに他なりません。



■ 医師としての財産それは、闘病中の患者さんが与えてくれた知識と経験

私自身の脳神経外科医としての研修は臨床を優先したものであり、決して正統で型にはまったものではありませんでしたが、多くの先輩諸氏の指導と助言、その下での多くの患者さんとの間で営まれた真剣な臨床活動、そして成書や講演による裏づけ学習や省察、それらの繰り返しで得られたものが大半を占めています。中でも、患者さんが自らの闘病経過を通して与えてくれた経験と知識ほど大きな財産はなく、それを新たな患者さんや後輩医師、地域に還元するのが自身の責務と感じて現在の診療を行なっています。

■ 医師人生最大の転機！ 病院長への就任と矢向・新病院建設

さて、小生の汐田総合病院での医療活動の中での

最大の転機は、1999年に病院長を拝命したことでした。それ以前の数年間、民医連として医療・福祉から医療・福祉・介護への展開、総合的施設体系の整備、当法人の地域での役割と存在意義の再確認、人づくりの推進、共同組織強化、安心してすみ続けられるまちづくり等が運動化されており、内部的には長期的な法人発展の基盤整備、空白地域克服のための新病院建設が構想されていました。国鉄の清算事業団が売りに出した新鶴見の操車場跡地が、関係者・先輩諸氏の大変な努力で入手でき、病院建設がようやく具体化する運びになりました。その直後に前任の川崎院長からバトンタッチされたのですが、新病院開設のための特命院長であることを強く自覚し、自分なりに新病院建設の多面的な意義付けを上記のように受け止めました。これを機に、「開かれた民医連」というキーワードを病院づくりに生かそうと、病院理念や基本方針づくりに取り掛かったのです。

21世紀を迎え、患者様・地域の方々と共に次の時代へ

■ 2001年、汐田総合病院新築移転

汐田総合病院は、多くの患者様や地域の方々のご支援を受け、2001年に区内初の老健施設（50床）を併設した病院（一般病床204床）として鶴見区矢向に新築移転しました。時期的には介護保険事業が2000年にスタートしており、新病院はこれらを踏まえて24時間救急、総合的医療、高齢者医療、在宅支援、地域連携に力を入れることを当初からの目標としていました。

■ 医療構造改革・地域医療再編の荒波の中での模索

しかしながら、新病院開設後の10年間は厚労省による「医療構造改革」の時期にも当たり、医師・看護師不足の深刻化、在院日数削減の制度的圧力など

が重なり病院運営は大変困難でした。また、2006年には国の4疾病5事業が決定し、横浜東部地域では中核病院の2007年開業を軸とする地域医療再編の動きが重なるという難しい状況が生まれました。移転後の12年間は、こうした医療構造改革の影響や地域医療再編の動きなどに対応して、限られた人的物的資源での最適対応を模索しながら中核病院機能と対比しての自院機能を差別化して行く課程でした。

■ 法人グループ全体での「戦略的自己変革」の取り組み

医療から介護にわたる
総合ケアサービスの提供をめざして

言葉を変えれば、これまで「一般病床」という類型の病床機能しかなかった急性期病院から、亜急性期の治療が継続できる「障害者病床」、リハビリに

特化した「回復期リハビリ病床」、比較的長い療養が可能な「医療療養病床」などの複合機能を持つ病院（ケアミックス病院）への自己変革の歩みということになります。こうした「変革は」病院単独ではなく、病院門前に開設した24時間対応の在宅療養支援診療所と訪問看護ステーション、老健やすらぎ等とともに一体的な方針の下に行われたもので、「汐田総合病院」から医療から介護にわたる総合ケアサービスの提供を特徴とした「汐田総合ケアセンター」としての構えを打ち出す一大変革であったのです。これらの対応は、高度・専門化した広域的な中核病院の役割と対比させて、今後地域で進行する高齢化の中で中長期の施設療養と在宅療養があわせて求められることを前提にした「うしおだグループ」全体の差別化戦略でもありました。この12年間の取り組みは、医療と介護の連携強化が言われ始めた今後の方向性を示すことにも繋がっています。

これからの超高齢化社会において

私たちはこれからも「安心して住み続けられるまちづくり」に貢献したい

最近明らかになった「税と社会保障の一体改革」の中では、今後の本格的な高齢多死社会に向かって

の備えが述べられています。そこでは、医療介護体制の基盤整備と再編を全体的に進めながら、医療から介護へ、病院から在宅への流れが加速されることが予測されています。具体的に述べれば、年間死亡患者が今より40万人も増加するのに対して、病院の平均在院日数を短縮しながら総病床は減少させ、一方で在宅ケアサービスや介護施設資源を強化しながら需要を吸収してゆくというのが、国の政策の根幹になります。こうした政策の裏付けとなるのが「地域包括ケア構想」ですが、これは病院以外の日常生活圏内で、医療と介護、生活支援や住まいなどの問題を包括的に解決しながら看取りまで含めて対応してゆく仕組みとされ、こうした病院医療に過度に依存しないシステムがすでに地域で形成され始めています。これらの新たな仕組みを円滑に機能させるためには、地域中核病院と在宅・介護分野とを結びつける「地域密着型の中小病院」の役割が大変重要になると考えられます。医療から介護へ、病院から在宅への流れが一層強まるこれからの時代に、当院のような地域密着型病院は、医療と介護の両方向に門戸を開いて機能強化を図り、地域全体を見据えた医療介護連携の中心的役割を發揮することが求められているのです。



2006年新館完成の記念樹「みやび桜」も大きくなりました

私と 汐田 総合病院

野戦病院のような汐田病院で 一人で始めた神経内科

うしおだ在宅クリニック 所長 塩田 純一



最初に汐田病院に来たのは横浜市大の学生だった頃、同級生が入院したのでお見舞いに訪れた昭和40年代の中頃である。「天井の低い暗い病院だな」と思ったのを記憶しているが、まさかその後自分がここで働くようになるとは夢にも思っていませんでした。

学生時代は山に登ってばかりでまじめな学生ではなく、その上大学を休んでいすゞのトラック工場で季節工として働き、お金を貯めてヒマラヤに遠征に出掛け、結局大学を卒業するのに10年掛かってしまった。山岳部の先輩が川崎協同病院にいて「山に行かせてやるから来い」の一言に乗って川崎協同病院に就職しました。

川崎協同病院は神奈川県民医連の研修病院で、当時内科学会関東地方会の幹事病院でもあったので横浜市大の同級生の半分は夏休みなどの研修に来ていたし、同級の2割が卒業後の初期研修に参加していたので大学の延長のようであった。その時の同級生が今横浜市大の教授になったりしています。

川崎協同病院での研修医時代は忙しく、月のうちの半分は病院に泊り込んで、特に呼吸器を回っている時は平均睡眠2時間と言う過酷な生活であったが、国立癌センターや虎ノ門病院に勉強に出してもらい充実した日々であった。一方その頃汐田病院（まだ汐田総合病院ではなかった）は野戦病院のようで少ない医師で何でも診ていかなければならなかった。人手不足を補うために神奈川県民医連の青年医師が2年間ずつ交代で汐田病院の支援に派遣されていた。その一人が「汐田病院は忙しすぎて体が持たない」の言葉を残してノイローゼで休職してしまった後、体力には自身があった私が派遣され2年の任期を過ぎても居座って30年以上になる。

汐田病院では川崎協同病院よりさらに忙しい日々が続いたが、自分の専門である神経内科の勉強にあちこち飛び回った。当時神経内科をやっているところは少なく、卒業した横浜市大にも神経内科は無く、汐田病院にいらした杉田先生のご主人が東大神経内

科で勉強され昭和大学に神経内科を開かれたので、そこに通って御指導を頂いた。ほかに都立老人研で東大の廣瀬教授との勉強会、千葉大の平山教授のカンファレンス、女子医大では大脳高次機能外来をやらせて頂いて、アドバイザーとしてカンファレンスにも参加させて頂いた。その当時から友人の河村先生（当時千葉大、現昭和大学教授）と汐田病院で月1のカンファレンスを続け、東大、東邦大の教授をはじめ多くの大学から様々な職種の方に参加いただいて日本の大脳研究に寄与し、そろそろ30年近くなる。病理学についてはしばらく時間を頂いて東大脳研の神経病理で研究させて頂き、汐田病院で剖検させて頂いた患者さんの結果を出し神経研究の進歩に寄与出来たと思っています。御指導頂いた朝長教授にかわいがって頂いただけでなくスタッフ全ての方が特別の便宜をはかって頂いて多くの論文を書かせて頂きました。

一人で神経内科を始めたが、汐田病院で神経内科を勉強したいという若者が次々と集まってくれて、優秀な脳外科医であった窪倉先生（現理事長）率いる脳外科とタイアップして脳血管障害センターを立ち上げた。当時CTスキャンが実用化され、脳卒中については画期的なことで、早期診断早期治療が可能になり、レントゲン科の頑張りでも24時間CTスキャンを稼働し後遺症を少なくするために昼夜を問わず診療を行いました。当時大学病院でもまだこのように夜間CTを撮ることが難しく、誇りを持った診療が出来ました。

在宅医療、往診は卒業直後から行ってきました。汐田病院でも先輩の桐山先生、田中先生を始め全ての医師が往診に参加し、訪問看護師がそれを支えて来ました。最近でこそ往診にしっかり診療報酬が付

くようになりましたが、従来往診は経営的には不採算の部門で多くの病院・医院が撤退していましたが、常に200名近い往診患者さんを抱えてきました。特に末期癌の患者さんで最期を自宅で過ごしたい方々については、かつて癌センターや大学病院などから退院の許可が下りないため、一旦汐田病院に転院して頂いて、こちらの責任で退院、往診へと御案内し

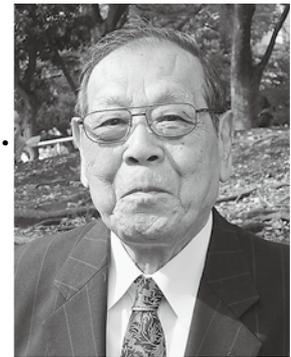
てきました。自宅で庭の木々を見ながら、家族に囲まれた終末期が最良のホスピスだと思っています。

現在横福協には大学病院並みの7人の神経内科専門医が居て、神経内科の専門医の資格を取る為の研修病院になっているので、修行中の医師を含めると2ケタの若い医師が居ます。今や私が出る幕はなくなって、往診や施設管理にシフトして来ています。

私と汐田総合病院

汐田病院への思い

元外科医師 安達 隆



創立60周年おめでとうございます。

私は昭和38年から定年退職した平成7年まで32年間、汐田病院と関わり、思い出がいっぱいです。外科医長として就職以来、たくさん手術を行ってきました。振り返ると野末先生、川崎先生を始め多くの医師、看護婦さんたちに支えられて大過なく卒業することができました。本当に感謝そのものです。

手術が終わった後の居酒屋でのコンパはいつも楽しく疲れを吹き飛ばしてくれました。理学診療所時代に労災職業病の取り組みに力を注ぎました。中で

も横浜市立保育園の鈴木保母さんの頸腕、腰痛が裁判闘争の結果、最高裁で勝利したことは主治医として最高の喜びでした。又、病院の職員旅行にも数多くの思い出があります。人生の大半を過ごした汐田病院、切っても切れないご縁です。「団結と前進」「厳しさと優しさ」をこれからも一人一人が意識して地域の人、働く人のいのちと健康を守る為に頑張ってください。

私と汐田総合病院

忘れられないひと

外科部長 大阿久俊郎



福岡出身の彼はいつしか食べると嘔吐を繰り返すようになり、体重も激減し歩くのもままならず、ついに近所の病院、汐田総合病院を受診した。年齢は50代、すぐに入院精査、点滴がはじまった。胃全体が癌におかされていた。スキルス胃痛であった。手術は一応切除できたがリンパ節は転移でゴリゴリ、癌は胃を貫き胃の表面に顔を出していた。再発は必発であった。退院後、土木の仕事に戻ったが3か月ほどで、やはり具合が悪くなり再入院となった。

前回の入院の時から、彼は言葉も乱暴で怒りやすく、医療者から敬遠されていた。再入院後も、乱暴な言動がみんなを遠ざけていた。が、癌は進行して

いった。

再入院後、ベッドの机に3歳ぐらいの女の子の写真が飾ってあった。気にはなっていたが、そのままとなっていた。一人の看護師が写真のことを聞くと、「福岡にいる子供である。現在は20歳ぐらいだ、3歳の時に別れた。別れた後、鶴見に来て仕事をしていた。」と。

写真はいつも同じ場所にあり、寝た場所から見える場所にあった。女の子の写真をきっかけに、医療者との会話も増えた。彼は、娘さんに会いたいのでは、会わせたいと、病棟のなかで話し合うようになった。時間がない、当時のケースワーカーであった松

尾さんに相談した。人探しの部署ではないと、苦笑いをしながら探し当ててくれた。彼の病状や会いたがっていることを手紙に書いてくれた。最初の返事は、私たちが苦しい生活をしているのは彼のせいだ、会いたくないと返事が来た。それでも何度か手紙を書き、行きたいが飛行機代がないと返事が来た。みんなでカンパを集めておくれた。そして、娘さんと奥さんが面会にきた。その後、娘さん単独で何回か来院して2人で散歩している姿をみる事ができた。宿泊するところは当時の看護学生用のマンションの1室を提供した。それ以後、彼は、吐いても吐いて

も食べることに執着した。彼にとって食べることは、生きることであった。生きて、もう少し娘さんとの時を過ごしたいと。彼は、最後まで大部屋、当時6人部屋にいることを望んだ。個室を勧めたが拒否された。なくなる1日前に個室を自ら希望して息を引き取った。最後までパンを食べていた。

当時は、緩和という言葉も十分浸透していなかったが、振り返れば病棟のみんなが彼を全人的にささえていた。私にとって、民医連を続ける原点であり、医師としての原点でもある。彼のおかげで、現在も癌の患者さんと関わる外科医として働いている。

私と 汐田 総合病院

月光菩薩と「いのちを支える医療」

清水ヶ丘セツルメント診療所 所長 井上 憲治

清水ヶ丘セツルメント診療所に勤務して16年目、今年3月に定年を迎えました。

医師になってから多くの方を看取ってきましたが、死して後も残された者の心を揺さぶる患者さんはたくさんおられます。

かつて、青森ではパーキンソン病診療に深く関わってきました。患者会を組織するお手伝いもさせて頂きました。パーキンソン病患者会『希望の会』の会長をされていた方が大腸癌で亡くなったとき、家族から「難病の研究のため、献脳したい」との遺言を聞かされました。体は医学生の解剖実習のために献体されていたため、脳だけ弘前大学医学部に戴きに伺いました。

このとき、患者さんがどんな思いで闘病されていたのかを初めて思い知らされ、まだ若かった自分自身にとってとてもショッキングな出来事でした。

「生命」は血圧や心電図などで客観的に測定・評価できますが、「いのち」は主観的で、その人が大切にしているもの、生きる意味や価値を指します。ギリシャ語では、前者はビオス、後者はゾーエと呼ばれ区別されているそうです。今の医療には「生命を救う医療」と「いのちを支える医療」の両者が必要だと思います。診療所の医療には「いのちを支える医療」こそ相応しいと考えますが、病院での医療ではこの「いのちを支える医療」の視点が決定的に

欠如していると思うのは私だけでしょうか。

病平癒の信仰対象として有名な薬師如来は、左右に日光菩薩、月光菩薩を従えています。一説によると日光菩薩

は昼に勉強することを意味し、月光菩薩は女性的な慈悲の心を意味するそうです。薬師如来が医師をはじめとした医療従事者で、その左右に向学心(勉強)と慈悲。慈悲とは「あわれみ、憐憫」でなく、「慈(いつくしみ)」=相手の幸福を望む心と「悲(あわれみ)」=苦しみを除いてあげたいと思う心だといえます。

乱暴な見方をすれば、月光菩薩が「いのちを支える医療」そのものと考えられることもできると思います。

雑誌の記事を読んで感動したことがありました。ディズニールランドのウェイトレスが、「今日は子どもの命日」と言った若い夫婦に子ども用の椅子を持ってきて二人の間に置いたという内容でした。このような自然体から醸し出される「やさしさ」は、医療に携わるものとして学ぶところが大きく、まさに月光菩薩そのものに思えました。

「温故知新」という使い古された言葉がありますが、日本の文化の中で医療を改めて見直してみる必要があるのではないのでしょうか。



横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院 年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1930年 （昭和5年）	
	東京・大崎に初の無産者診療所が開設される
1931年 （昭和6年）	
	大阪及び三島に無産者診療所が開設される 日本無産者医療同盟が結成される（全国で1病院23診療所）
1941年 （昭和16年）	
	新潟無産者診療所が弾圧され無産者診療所は姿を消す
1945年 （昭和20年）	
	第二次世界大戦終わる
1946年 （昭和21年）	
	全国初の民主的診療所として東京自由病院が開設され以後、東京代々木病院、全駐労北海道地方本部診療所が開設される
1948年 （昭和23年）	
	医師法・医療法等医療関係各法が公布される 支払基金が設立される 日患同盟結成される新医協結成される 国家公務員スト権が剥奪される 医療民主化全国会議結成される 民診5都道府県で8ヶ所となる
1949年 （昭和24年）	
	中医協が設立される 病院管理研究所設立 レットバージが始まる、三鷹・松川事件が発生 全国で民主的院所14ヶ所に

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1950年 （昭和25年）	
	<p>ストックホルムアピール発表、医療法人制度と完全看護制度などが始まる、共産党中央委公職追放が解除される、朝鮮戦争始まる、警察予備軍の創設、京都府革新知事実現、総評結成、戦犯の公職追放解除、鶴見地区で18組合で200人のレッドパージが行われる、全国で民主的院所32施設に</p>
1951年 （昭和26年）	
	<p>診療報酬引き上げ運動が進められる 保助看法が改正される（准看制度） 結核予防法が全面改正に 単独講和・日米安保条約締結される 民主的院所21ヶ所開設される（川崎大師診療所設立） 鶴見地区初のメーデー（再軍備反対、全面講和を掲げ27団体、1万人が参加）</p>
1952年 （昭和27年）	
	<p>民主的院所全国で16ヶ所開設 健保法改正、国立療養所の付添制度廃止に インターン反対闘争始まる メーデー事件、吹田事件が起きる 破防法が制定され米軍基地増強される 東京保険医療研究会結成（中央保険医研の前身） 米国初の水爆実験を行う 鶴見地区内で首切り・工場閉鎖に反対する闘争が地域ぐるみ、家族ぐるみで進められる</p>
1953年 （昭和28年）	
<p>汐田地区地元の有志が大師診療所の支援のもとに診療所設立発起人会をつくる（6月） 鶴見地区労、民主団体の役員も加わり設立実行委員会に発展（10月） 下野谷町に土地264坪、建物65坪取得（11月） 汐田診療所開設（開所式行う）桐山院長はじめ職員3名（内科、小児科、放射線科、呼吸器科標榜）（12月1日開所） 外来患者懇談会を開催</p>	 <p style="text-align: center;">設立時の汐田診療所</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
 <p>設立当初の職員。右端が桐山所長</p>	<p>総評が社会保障要綱を発表 日雇健保法が制定される スト規制法が制定される 内灘基地反対闘争が勃発、以後米軍基地反対闘争が激化 池田・ロバートソン会議が行われる 熊本水俣病発生（第一号患者）、全日本民医連が結成される（6月7日）、神奈川県民医連の結成</p>
<p>1954年（昭和29年）</p>	
<p>運営委員会設立（設立実行委員会発展的解消）（1月） 小野町生活を守る会の要請で会員並びに住民対象に現地で集団健診を行う（3月） 社会保障を守る会発足 汐田診療所従業員組合設立（5月） 患者急増のため改造工事を行い、外科、産婦人科を増設し入院室を設ける（7床、職員15名、6月） 結核患者入院基準、付添看護制度反対運動支援（7月） 外来患者懇談会生まれ療友会へ発展（6～10月） 産児調整運動（9月） 鶴見地区労、鶴見区医師会との懇談会開く（10月） ストマイ・パス点数切下げ反対運動（10月） 付添看護制度反対運動を支援 強制医薬分業反対・新医療費体系反対運動</p>	<p>第5福竜丸が被爆、MAS協定が発効される 全生連が結成される 健保改悪反対闘争がおきる デフレ恐慌がおきる 自衛隊が発足 結核患者入院基準が制定される</p>
<p>1955年（昭和30年）</p>	
<p>医療生活相談部設置、結核患者家庭訪問（5月） 汐田相互会が設立決める（6月） 医療法人化の検討を開始、法人名を大衆公募する（7月） 増設計画を発表（24床、523万円の規模、2～10月） 労災保険指定医療機関となる 厚生年金還元融資獲得署名運動はじまる（9月） 神奈川県民医連に運営委員会として加盟決定（10月）</p>	<p>全日本民医連第3回大会で綱領を改定 森永ヒ素ミルク中毒事件が発生 健保法改悪の動き強まり労医提携運動が進む 自民党結成される 原水爆禁止世界大会はじまる</p>
<p>1956年（昭和31年）</p>	
<p>増床計画決定（15床、250万円、1月） 増床完了し、19床、職員26名に、レントゲン500ミリ断層撮影装置を設置（5月） 汐田診療所協力会をつくることを計画（5月、10月）</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
神奈川県勤労者福祉協会（案）討議（大師、戸塚、汐田、9月） 鎌倉市民診療所設立を援助、融資100万円（9月） 鶴見地区労の要請により家族317世帯の家族計画運動に取り組む(11月) 開設3周年記念で無料健康診断、映画、その他行事開催（12月）	引き続き労医共闘による健保改悪反対闘争進む 砂川基地反対闘争おこる 日本が国連へ加盟する 熊本水俣病が大問題に

1957年（昭和32年）

鶴見区医療概要調査が実施される（2月） 鶴見地区労日雇労働者集団健診運動に取り組む（3月） 保土ヶ谷精神病院問題を討議（3月） 末吉分院問題討議（8月） 医療法人（財団）の組織化について再検討開始（8月より） 鶴見地区の日雇労働者集団健診実施する872名（10月）	健保法が改悪される 原爆医療法が公布される 日本医労協が結成される 朝日訴訟はじまる 新長期経済計画決定
---	--



集団健診運動に保健所・市医師会と共に取り組みました（朝日新聞）

1958年（昭和33年）

医療法人化に伴う理事会構成増員（沖縄県人会、全日自労鶴見、一般産業労組、鶴見商工会、町内会より各1名、3月）	
--	--

医療法人化が神奈川新聞に取り上げられました（神奈川新聞）

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>保土ヶ谷診療所の設立支援討議 (5月) 鶴見健康を守る会が設立される (6月) 鶴見民生安定所と生保患者取り扱いについて交渉 (9月) 病院化について建設委員会を設置し検討をはじめ (10月) 向井町分院について提案を受けて検討 (10月) 医療法人 (財団) 資格取得 (11月) 5周年記念式典を開催 (大衆演芸等記念行事、12月)</p>	<p>新国保法が公布される 新医療費体系 (診療報酬1点単価10円による甲乙2表) 実施される 基準看護が開始される 警職法反対の闘争おきる 安保改定交渉開始</p>
<p>1959年 (昭和34年)</p>	
<p>大船診療所建設援助として融資10万円を行う (4月) 病院建設鉄入れ (32床、550万円の予算、7月) 病院理事に鶴見健康を守る会より1名増員 (9月) 病院建設棟上式 (9月) 平塚診療所建設運動討議 (9月) 病院建設完成、落成式 (12月)</p> <div data-bbox="220 1037 799 1429" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">病院診療を開始した時の入口です</p>	<p>川崎市国保闘争が勝利 (世帯主7割給付実現) 国民年金法の公布 青森等全国各地に小児マヒが集団発生 安保国民会議が結成される 伊勢湾台風被災地へ民医連医療班派遣 (延700人) 鎌倉市民診療所火災 (1月)</p>
<p>1960年 (昭和35年)</p>	
<p>平塚診療所建設援助として融資15万円を決定 (12月) 汐田病院として診療開始、県の許可 (5月、32床に) 萱野理事長辞任、大島理事長就任 (6月) 労災指定医療機関の認可を取得 (8月) 鶴見国保と年金をよくする会に参加 (8月) 小児マヒ運動を展開、各地の運動支援 (9月より) 月間「暮らしとからだ」創刊 (11月) 「病院スト」に対し声明書配布 (12月)</p>	<p>朝日訴訟で一審勝利する 小児マヒ全国で大流行 安保闘争 所得倍増計画発表される 病院ストが実施される 三池闘争</p> <div data-bbox="678 1576 932 1906" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">大島理事長</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1961年（昭和36年）	
<p>ガン一般精密相談指定医療機関の認可を受ける（2月） 日医「4要求」により一斉休診（2月） 追浜診療所設立を援助（2月） 鶴見地区病院事務長協議会を組織（3月） 鶴見安保共闘会議に参加（6月） 鶴見子供を小児マヒから守る協議会に参加（7月） 医療費引き上げをめぐる厚生省告示と日医の保健医総辞職戦術について病院労組と共同声明を発表（7月） 民医連綱領討議（10月） 鶴見社会保障推進協議会が結成される（10月） 産婦人科増設（新生児、産婦人科診察室、11月） 職員共済組合が発足 就業規則を制定</p>	<p>全日本民医連臨時総会で綱領を改定 日本共産党が綱領決定 小児マヒ生ワクチンをソ連から1000万人分緊急輸入 国民皆保険制度が発足 世界労連が「社会保障憲章」採択 日本医師会4要求により一斉休診</p>
1962年（昭和37年）	
<p>院内一部改造増設（給食事務室、レントゲン室、1月） 基準給食の認可を取得（10月） 市場地域に診療所建設について討議（2月） 横浜市国保査定撤回の闘争</p>	<p>社保制度審議会が総合調整勧告発表 国立ガンセンターが発足 ME学会が設立される 日韓会議がはじまる</p>
1963年（昭和38年）	
<p>常勤医師体制増（2月） 基準寝具が認可される（4月） 理事会構成を拡大、院内より新理事5名決定（5月） 医療活動委員会が発足（7月） 汐田診療所・病院開設10周年記念祝賀会を開催（12月） 外科の医師体制が常勤医師に</p>	<p>「民医連新聞」が発刊される 老人福祉法公布が公布される 医療制度調査会が制度改善基本方策を答申 松川事件全員無罪に 高度経済成長続く 日本生協連医療部会が結成される</p>
1964年（昭和39年）	
<p>汐田病院増改建設準備はじまる（6月） 新潟大地震、救援医療班派遣（6月） コレラ侵入、予防接種活動（8月） 日東化学独身寮で集団赤痢発生し予防活動にあたる（9月）</p>	<p>医系学生の第1回民医連研究集会 新潟に水俣病発生 健保法改悪反対闘争が広がる 朝日訴訟の朝日茂氏死去 米国が北ベトナム爆撃を開始 同盟が発足 公明党が結成される</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1965年（昭和40年）	
<p>汐田病院増改築工事始まる、地鎮祭（7月） 社会福祉事業法による第2種社会福祉事業施設認可を取得（8月） 小野町で大火が発生、救護活動を行う（8月） 老人福祉法に基づく老人健康診査指定医療機関（10月） 健保、共済改悪反対闘争（9月から10月）</p>	<p>「民医連医療」誌創刊 職権告示による診療報酬是正 健保・共済の改悪反対闘争広がる インターン闘争が拡大 日韓条約の調印</p>
1966年（昭和41年）	
<p>3・12医療保険抜本改悪粉砕神奈川県決起集会に参加（3月） 汐田病院増改築工事完成、92床に（5月） 「鶴見健康を守る会」が名称変更して「鶴見生活と健康を守る会」に（全生連に加盟、5月） 医療社会福祉事業部を新設～ケースワーカー、保健婦配置（5月） 被爆者健診指定医療機関となる、被爆者健診第1実施（6月） 入院患者自治会が結成される（9月） ベトナム侵略反対要求貫徹鶴見連絡会に参加（10月） 全職種参加の症例検討会（飲酒患者）はじまる（11月） 審査減点に対する支払い基金と集団交渉（10月から11月）</p>	<p>全日本民医連が労災職業病と公害研究会集会開催 健保法の改悪が成立 イタイタイ病社会問題化 10・21ベトナム反戦ストが行われる 汚職に端を発する国会解散</p>
	<p>92床の病院に</p>
1967年（昭和42年）	
<p>疾患別グループ発足、11グループ（1月）育児教室開催（4月） 糖尿病教室開催（7月） 酒和会が発足（9月） 健保特例法のたたかい、1・19横浜大集会に参加（1月） あけぼの保育園が汐田病院労組と地域団体などにより開設される（2月） 京浜職業病対策連絡会が結成される（3月） 健保特例法反対のたたかい、駅頭署名、国会闘争（6～8月） 初の職業病集健に取り組む、海事検定協会横浜支部タイピスト集健（6月） 自治体の費用負担による全日自労鶴見分会の集健に取り組む354名（7～10月） 臨床病理検討会を開催（8月） 老人健診実施、第一回、60名（9月） 大気汚染の影響による健康調査活動（下野谷1～2丁目、12月より）</p>	<p>東京民医連老人健診に組織的に取り組む、以後全国的に波及 健保特例法が強行採決され公布される 新潟・四日市で公害訴訟が開始される 公害対策基本法の公布 東京都に革新知事が誕生</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1968年（昭和43年）	
<p>3・13医療保険抜本改悪粉碎神奈川県集会（3月） 十勝沖地震に救援医療班派遣（5月） 医療保険抜本改悪反対で鶴見駅頭署名行動（6～9月） 鶴見地区労、胃の健診始まる、以降年1回実施（8月） 老人健診活動248名（9～12月） 自治体（市）請願一部可決（10月） 11・26医療保険抜本改悪反対神奈川県集会（11月） 老人集会（5団体）に向けての取り組み（12月）</p>	<p>全日本民医連が「青年医師受け入れと研修について」方針発表 新潟県立病院で看護婦2・8闘争が勝利 インターン制度が廃止に 富山イタイイタイ病の訴訟開始 ベトナム問題でパリ会談はじまる</p>
1969年（昭和44年）	
<p>健保抜本改悪反対鶴見駅頭ビラまき（1月） 鶴見建設労組の香港風邪予防注射を実施（2月） 京三製作所労組母体保護学習会へ講師派遣（2月） 横浜市従労組と共に公害調査活動、下野谷、浜町、寛政（公害グループ、3月） 健保特例延長阻止の闘争（4～6月） 原爆認定医療機関認可（4月） 皮膚、泌尿器科の特診開始（岩崎医師、5月） 高血圧、院外教室（全日自労鶴見分会349名、5～6月） 短歌のサークル「うしお」が誕生 老人要求で対市交渉（達生協、陳情バス1台、9～11月） 産婦人科、常勤体制に（富岡医師、11月） 第3回達者で長生きする老人の集い400名（達生協、12月）</p>	<p>自民党が「国民医療対策大綱」発表 東京都が老人医療無料制度を実施 大学の民主化闘争が広がる GNPが世界第2位に 全国保団連が結成される</p>
1970年（昭和45年）	
<p>全日自労の鶴見、横浜、港北健診249名（3月） 老人健診（矢向、市場地区、達生協、3月） 看護婦法反対署名行動（4～5月） 研修医受け入れ（外科原医師、5月） 第4回達者で長生きする老人の集い（600名、達生協、6月） 横浜市従、県保険医協会とともに公害対策研究会を設ける（7月） 公害対策研究会、鶴見、神奈川、磯子の海、河川の水質調査（9月） 亜硫酸ガス、アルカリ濾紙法による測定を実施（鶴見を明るくする会、9月） 「鉛」健診実施（鶴見公害対策研究会、9月） 老人健診、寺尾末吉地区448名（達生協、10月） 「公害」7項目請願署名で横浜市議会可決（公害対策研究会・横浜から公害をなくす連絡会、10月） 老人要求市会請願、3項目可決（達生協、10月） 第5回達者で長生きする老人の集い（達生協、12月）</p>	<p>民医連が老人医療無料化を求める運動を全国的に展開 東京、川崎、横浜をはじめ主要工業地域に光化学スモッグ、各地で公害闘争拡大 診療報酬改定が年2回行われる 全日本民医連は「70年代の課題にふさわしい民医連運動の新たな前進のために」を発表</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1971年（昭和46年）	
<p>医療活動方針決定（3月）</p> <p>健保改悪反対署名（4月）</p> <p>不二家労組京浜支部の婦人の健康について学習会に講師派遣、以後も各労組の要請で講師派遣等行われる（4月）</p> <p>診療報酬引き上げ闘争、日医の保険医総辞退に代理請求方式で参加（7月）</p> <p>X線テレビ等医療施設拡充資金募集開始（7月）</p> <p>X線テレビ設置（9月）</p> <p>老人健診（汐田、生麦、駒岡、末吉、529名、達生協、47年以降も全区的に呼びかけ実施、10月）</p> <p>汐田病院付属鍼灸施術院開設で職業病診療が本格稼働へ（10月）</p> <p>後期研修医受入れ（内科平尾医師、10月）</p> <p>相模原民診建設要員派遣（川口氏、10月）</p> <p>診療報酬、緊急引き上げ闘争（12月）</p> <p>老人医療費、横浜市無料化実施（12月）</p> <p>初代理事長萱野義清氏逝去（12月）</p>	<p>健保改悪反対闘争</p> <p>環境庁が発足される</p> <p>日医が健保改案に抗して保険医辞退戦術に沖縄協定強行採決</p> <p>大阪府で革新知事が誕生</p> <p>ニクソンショックがおこる</p> <p>横浜市で老人医療費無料化を実施</p>
1972年（昭和47年）	
<p>研修強化のため毎週土曜午後休診実施（2月）</p> <p>頸腕症候群の患者交流会開催（2月）</p> <p>病院3階屋上資料室増築（2月）</p> <p>後期研修医受入れ討議（2～5月）</p> <p>鶴見区内の民診建設討議開始、第1回世話人会開催（4月）</p> <p>健保大改悪反対闘争、廃案へ（4～6月）</p> <p>老人健診実施（達生協、6月）</p> <p>乳幼児医療費無料化を進める横浜連絡会を結成し署名運動はじまる（8月）</p> <p>米軍戦車輸送阻止闘争に医療班を派遣（10～11月）</p> <p>病院増築工事はじまる（11月）</p>	<p>民医連が第1回青年ジャンボリー開催</p> <p>全日本民医連共済組合が設立される</p> <p>政府厚生省は医療保険抜本改悪案決める</p> <p>診療報酬引き上げが実施される</p> <p>日本列島改造論が発表される</p> <p>日米会議</p> <p>保母、チェッカー職業病初の労災認定（6月）</p>
1973年（昭和48年）	
<p>健保改悪反対闘争（2月）</p> <p>医療法人を解散し財団法人横浜勤労者福祉協会設立（2月）</p> <p>病院増改築建設債募集はじまる（4月）</p> <p>病院増改築反対陳情書が市会に提出される（5月）</p> <p>管理体制強化のため副院長制実施（6月）</p> <p>病院増改築、建築確認認可がおりる（7月）</p> <p>寝たきり老人等への訪問看護はじまる（6月）</p> <p>老人健診の予約制開始（7～9月）</p> <p>病院増改築、竣工式（8月）</p> <p>診療報酬大幅引き上げ闘争はじまる（12月）</p>	<p>第1回の民医連運動交流集会及び学術集談会開催される</p> <p>健保改悪反対闘争</p> <p>名古屋市で革新市長誕生</p> <p>ベトナム協定が調印される</p> <p>国の老人医療費無料制度実施</p> <p>公害健康保障法が成立</p> <p>オイルショックが発生、異常な品不足と狂乱物価の事態に、石油不足</p> <p>薬品の品切れと薬価の高騰が発生</p>

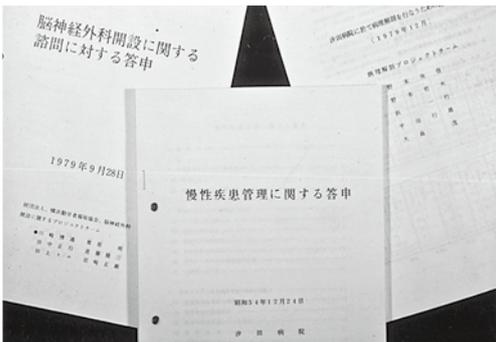
横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1974年（昭和49年）	
<p>増改築、上棟式（2月） 恵風寮（老人ホーム）の協力病院に（4月） 国民春闘に半日休診で参加（4月） 土曜日午後半休体制開始（月2回、5月） 増改築の空調設備「日本熱工学工業」倒産のため 混乱、下請け業者により工事再開（5月） 横浜勤労者福祉協会友の会が結成され無料 健康相談活動などはじまる（5～6月） 友の会の無料健康診断が開始される 増改築工事新館完成、新館にて診療はじま る、病床128床（6月） 整形外科医常勤体制に（葉梨医師、6月） 県民医研学生32名病院訪問・交流（6月） 診療報酬、老人、看護婦の三大要求署名運 動はじまる（6～9月） 保険薬局開設（8月） 創立20周年、施行記念式典開催（10月）</p>	<p>民医連が「全職員参加の症例検討」方針 発表 不況インフレが深刻化 診療報酬改定（年2回） 田中角栄金脈が露見し批判続出 統一促進懇が統一労組懇に発展</p> <div data-bbox="742 698 1375 1120" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">新館完成。病床128床に</p>
1975年（昭和50年）	
<p>寝たきり老人の移動入浴車の対市要求の署名運動はじまる（3月） 夜間救急輪番制による救急医療開始（3月） 病院院内保育所発足（4月） 市内民医連関係院所に呼びかけ神奈川県民医連横浜連絡会結成（5月） 各病棟看護婦2人当直制の実施（6月） 病院甲状腺、血管外科の特診を設ける（6～7月） 全館冷房設備設置（7月） 歯科開設診療開始（神奈川県民医連内で初めて、8月） 保健活動課（訪問看護、集健、慢性疾患管理、友の会事務局）の 設置（8月） 横浜連絡会として横浜ブロックの長期医療構想を協議、10ヶ年計 画を設定（8月） 民診建設委員会開催、土地選定はじまる（10月） 診療報酬引き上げ等4大要求50万人署名運動（10～12月） 第1回健康まつり開催（11月） 以降年間行事として友の会、区内諸団体と共催で行う</p>	<p>全日本民医連が医療改善など50万人署名 に取り組む 八鹿事件が発生 ベトナム・サイゴン開放 第1回先進国首脳会議が開かれる</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1976年（昭和51年）	
<p>県高齢者集會に病院からの呼びかけで95名の参加（2月）</p> <p>三ツ池、鶴見総合、汐田の3病院公害患者会発足（3月）</p> <p>土曜日午後半休実施、同時に木曜午後研修・諸会議の場に編成替え（4月）</p> <p>窒素酸化物の全市的測定活動に参加（6月）</p> <p>増床、第2手術室と予備室の増設、事務室の移設など改造を行う、病床133床（6月）</p> <p>日本鋼管扇島公害を規制する署名活動に取り組む（9月）</p> <p>X線連続撮影装置を導入（9月）</p> <p>老人医療費有料化反対の署名運動に取り組む（9月～）</p> <p>全日本民医連提唱による5大要求団体署名活動に取り組む（10月～）</p>	<p>民医連が「各職種の役割」を提起</p> <p>ベトナム社会主義共和国が成立</p> <p>ロッキード事件明るみへ、田中角栄ら逮捕</p> <p>衆議院で社共後退し中道政党が議席を伸ばす</p> <p>民社党委員長が反共違憲質問を行う</p>
1977年（昭和52年）	
<p>病院衛生委員会組織（1月）</p> <p>新婦人の会鶴見支部の要請に応え婦人の健康相談活動を行う（2～5月）</p> <p>鶴見歯科クリニック協会施設として開設（4月）</p> <p>県下初の「白ろう病」健診実施（4月）</p> <p>友の会会員家族健診を開始（5～7月）</p> <p>整形外科、外来を主とした非常勤体制となる（5月）</p> <p>物療、夜診開始（6月）</p> <p>被爆国際シンポジウムに向けて県内被爆者の生活と健康の実態調査に参加（6月）</p> <p>窒素酸化物測定活動（公害グループ、6月）</p> <p>理事長大島稔一氏逝去（9月）</p> <p>神奈川民医連横浜連絡会2ヶ年の総括（9月）</p> <p>継続審議の健保改悪法反対闘争（9～12月）</p> <p>施設一部拡充（保育所、看護婦寮、小野ハイツの一画に移転、それに伴い既設木造建物に鍼灸室、保健活動課等移転、11月）</p> <p>鶴見歯科クリニックの分離を決定、病院歯科は存続に（12月）</p> <p>理事長に桐山文志院長就任（12月）</p>	<p>原水爆禁止統一世界大会が開催される</p> <p>被爆問題国際シンポジウムが開催される</p> <p>ILO看護職員関係条約が批准される</p> <p>参院選で社共後退し中道政党が議席を増やす</p> <p>政府が医療保険制度改革14項目を発表</p>
1978年（昭和53年）	
<p>横浜市長選「市民の市長をつくる運動」に参加（1～4月）</p> <p>基準看護取得を目指し第1病棟3交代勤務に入る（3月）</p> <p>初診料など大幅患者負担増を柱とする健保改悪案国会提出に対し署名請願等の行動（4～6月）</p> <p>脳外科特別診療開始（6月）</p> <p>歯科夜間診療開始（7月）</p> <p>1日断面調査（県連）実施、以降経年的に実施（7月）</p>	<p>京都知事・横浜市長選で革新現職が敗北後退</p> <p>診療報酬が改定される</p> <p>大幅な患者負担増の健保抜本改悪反対闘争</p> <p>民医連「民医連における各職種の役割と民主的集団医療の課題」発表</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>第3病棟3交代勤務に入る (8月) 前国会に引き続き健保改悪反対の取り組み (9~10月) 第4回健康まつり (創立25周年記念) ミニ運動会等多彩な計画で開催 (参加1800名、10月) 医科診療所と歯科診療所の設立を決定 (11月) 「良い歯をつくる会」結成発足 (11月) 創立25周年式典 (2000名参加、12月)</p>	 <p>創立25周年記念。桐山理事長</p>
<p>1979年 (昭和54年)</p>	
<p>汐田歯科診療所開設 (3月) 病院病室、談話室等施設一部改修 (4月) 県連決定により川崎医師 (外科) 着任 (5月) 主任医長制度発令 (6月) 第2回院内学術集談会開催 (6月) 梶山診療所開設 (7月) 各病棟に副主任制実施 (7月) 各プロジェクト答申が出る (脳外科、慢性疾患管理、病理解剖、10月) 基準看護特I類取得 (11月)</p>  <p>各プロジェクト答申</p>	<p>京都府、大阪府知事選挙で革新現職敗れる 民医連が解説パンフ「民医連の歴史と綱領」を発行 民医連共済年金制度が発足</p>  <p>梶山診療所。区内三ツ池公園近くに開設</p>
<p>1980年 (昭和55年)</p>	
<p>第3回院内学術集談会を開催 (2月) 清水ヶ丘セツルメント診療所への医療支援開始 (2月) 県連決定により野本、浜医師着任 (5月) 超音波診断装置、プロジェクト答申に基づき導入 (5月) 頭部CTスキャン導入され稼働開始 (6月) 協会総合計画委員会発足 (第1次、7月)</p>	<p>全日本民医連第24回総会で長期計画指針を決定 富士見産婦人科病院事件が発生、マスコミが反医療キャンペーン 健保・老人医療改悪反対闘争 (4党合意粉砕) 臨時行政調査会設置法が成立</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>隣接地借地権取得 (8月) 保健所保健婦、福祉事務所CW参加でCTと訪問看護についての研究会開催 (8月) 第4回院内学術集談会を開催 (8月) 皮膚科の特診開始 (11月) 病棟師長制を発令 (11月) セツルメント診療所所長に浜医師を派遣 (11月)</p>	
1981年 (昭和56年)	
<p>基準看護特Ⅱ類取得 (1月) 梶山診療所2人常勤医師体制実現し全日診療開始 (1月) 総合計画に対する答申出る (1月) 答申に基づく「当面の医療計画」実現のための建設委員会発足(1月) 日本医師会臨床検査制度管理調査で総合評価98点でAランクに(2月) 「1人暮らし、寝たきり老人実態調査」活動委員会発足 (4月) 第5回院内学術集談会開催 (4月) 外来検討会準備会が発足 (5月) 緑区歯科民診設立支援のため歯科検診と懇談会を実施 (5月) 老人保健法反対運動活発化 (6月) 汐田薬局病院外に移転 (6月) 初めて放射線学生夏季実習受入れ (7月) 緑区歯科民診設立準備のため職員現地に出向 (9月) 協会事務所等完成 (10月) 入院患者へのリハビリ回診、リハビリ評価会議はじまる (10月) 鍼灸室、梶山診療所へ移設 (10月) 当面の医療計画による新館建設工事開始 (11月) 「1人暮らし、寝たきり老人実態調査」鶴見区実行委員会結成(12月) 脳外科が県連研修機関となる</p>	<p>米国レーガン大統領就任 健保・老人医療改悪反対の闘争 第2次臨時行政調査会 (第2臨調) 第1次答申がなされる 老人保健法が成立 6・1診療報酬改定</p>
1982年 (昭和57年)	
<p>協会内労災職業病討論集会を開き十数年の活動を総括 (1月) 保健所と共同の在宅リハビリ活動開始 (2月) 協会総務課庶務業務を分離、病院事務課庶務係を編成 (3月) 第7回院内学術集談会を開催 (3月) 老人保健法反対国会行動活発化 (3~8月) 汐田歯科診療所が夜診開始 (4月) 病理組織検査業務開始 (4月) 協会と清水ヶ丘セツルメント診療所合併 (4月) 県連内科研修病院となる (初の卒後内科研修医受入れ2名、5月)</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表



協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>梶山診療所、労災職業病打切り制限に反対し「患者と医療関係者の会」開催（6月） 新館建設完了（5月） 多軌道断層撮影、脳波検査、アンギオ、病理解剖等開始（7月） 正常圧水頭症による認知症に対する脳外科手術と訪問看護テレビ放映、全国より反響大（8月） 老人健診実施に向けて区内108老人クラブを訪問（8月） 脳血管障害センター答申が出され討議開始（9月） 清水ヶ丘セツルメントの学生と初の懇談会（9月） 病院許可病床166床に（9月） 清水ヶ丘セツル診友の会、協会友の会との合併決定（10月） 臨床病理検討会を開催、以後2ヶ月毎開催（10月） 脳血管障害センター開設に向け「準備委員会」発足（11月） 病院院長に野末侑信医師が就任（12月） 脳外科常勤医師体制確立（主任医長に坪根医師、12月） 児童福祉法による入院助産施設認可を受ける（12月）</p>	<p>第2臨調2次答申が出される 中曽根内閣誕生、軍拡臨調路線強まる 新社会保障憲章が出される 民医連第25回総会（信頼・団結・統一の3つの立場で危機打開へ）</p>

1983年（昭和58年）

<p>脳血管障害センター開設（1月） 乳房X線撮影装置の稼働開始（2月） 患者の医療要求把握の為「医療要求アンケート」実施（2月） 肛門科を標榜（3月） 区民の健康と医療を守る鶴見区民集会開催（100名、3月） 汐田歯科診療所所長に鈴木医師就任（4月） 職業病患者に労災打切り通告（労災打切り15名、鍼灸打切り31名、4月） 障害患者（脳卒中後遺症）のお花見会、三ツ池公園で（4月） 臨床心理士業務を開始（4月） 神奈川診療所に診療支援開始（5月） 山梨勤医協支援カンパに取り組む（5月） 汐田歯科診療所新卒医師着任（本間、神岡医師、5月） 第3回歯科の健康まつりに230名が参加（6月） 検討委員会より「コンピューター導入についての提案」出る（6月） 病院外来婦長制を発足（6月） 県連事業「かながわ生協職員健診」開始、以後毎年取り組む（6月） 神経内科標榜（6月） 県連決定により中堅医師赴任（内科鈴木医師、7月） 新副院長（川崎医師）、新事務長（栗原）等幹部人事発令（8月） 社会医学センター発足（8月） 汐田病院管理部を編成（8月） 健保大改悪に反対し国民医療防衛闘争委員会結成（9月）</p>	<p>山梨勤医協が倒産、全日本民医連第3回臨時評議員会で再建問題を討議 全日本民医連が結成30周年を迎える 健保改悪反対闘争（今後の医療政策～視点と向発表）、臨調の最終答申が出される</p>
--	---

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>全日本民医連共済バレーボール大会で男子初優勝以後5連覇、10月)</p> <p>汐田病院週報第1号発行 (10月)</p> <p>脳神経外科西村医師が着任 (11月)</p> <p>言語療法を開始 (11月)</p> <p>第1回院内民医連運動交流集会開催 (29演題、12月)</p> <p>山梨勤医協への「1億円カンパ」に取り組む (協会全体で256人、1431千円、12月)</p> <p>汐田病院創立30周年記念の集い開催 (鶴見会館、12月)</p> <p>30周年記念誌を発行 (12月)</p> <p>協会第2次総合計画検討委員会が発足 (12月)</p>	<div data-bbox="858 412 1369 763" data-label="Image"> </div> <p>30周年で挨拶する野末院長</p>
<p>1984年 (昭和59年)</p>	
<p>病院第2次総合計画検討委員会発足 (1月)</p> <p>検討委員会より「ホールボデーCT検討報告」出る (3月)</p> <p>協会社保闘争委員会を病院社保闘争委員会に改組 (3月)</p> <p>第9回院内学術集談会 (4月)</p> <p>全国の民医連医師参加し「民医連脳卒中連絡会」汐田で開催 (5月)</p> <p>梶山診療所第1回保健大学が開講 (43名、以後継続的に開催、5月)</p> <p>梶山診療所、土曜を除く毎日夜診を開始 (5月)</p> <p>病棟運営委員会発足 (5月)</p> <p>給与の銀行振込み制実施 (6月)</p> <p>診療所へのコンピューター導入決定 (6月)</p> <p>山梨勤医協再建カンパに取り組む(224名、代表3名が現地訪問し激励)</p> <p>友の会汐田病院支部の結成総会が開催された (7月)</p> <p>喘息大学を発足 (7月)</p> <p>病院社保闘争委員会主宰「社保学校公開講座」(8~10月)</p> <p>ホールボデーCT稼働開始 (8月)</p> <p>病床3床増許可、許可病床169床に (8月)</p> <p>病歴管理業務を開始 (9月)</p> <p>汐田歯科診療所で労金歯科健診を実施 (10店230名、9月)</p> <p>「協会管理部の役割と構成」を改定 (10月)</p> <p>協会第2次総合計画第1次答申が発表される (10月)</p> <p>第1次答申による協会建設委員会設置を決定 (10月)</p> <p>清水ヶ丘セツル診で保健講座を開始 (11月)</p>	<p>健保改悪反対闘争</p> <p>報徳会宇都宮病院事件が発生した</p> <p>原水爆禁止世界大会で「東京宣言」が採択された</p> <p>7・29核廃絶・政党法反対中央集会に11万人が参加</p> <p>健保本人9割給付に改悪される</p> <p>「健保改悪に反対する鶴見区民連絡会」7団体で発足</p> <p>県連第1次長期計画(案)討議の臨時総会を開催した</p> <p>神奈川県民医連横浜連絡会第2次長計指針案討議集会を開催した</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表



協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
1985年（昭和60年）	
<p>汐田薬局でコンピューター本格稼働（1月） 反核意見広告を神奈川新聞に掲載（職員94名応募、1月） 給与関係のコンピューター本格稼働（2月） 医療法改悪問題学習月間（社保闘争委パンフ作成、2～3月） 緑区に民主診療所をつくる会総会が開催される（2月） 民医連横浜連絡会内「医療を学ぶ事務の会」発足（3月） 第10回院内学術集談会が開催される（3月） 汐田歯科診療所、協会初の「非核の平和診療所宣言」（4月） 第10回全国公害被害者総行動デーに患者さんと共に参加（6月） 協会「反核署名を進める会」を結成（後に反核署名推進委員会に、6月） 梶山診療所で「非核宣言」を決定（6月） 桐山理事長が退任し野末病院長が理事長に就任（6月） 梶山診療所が労災全例返戻に抗議（7月） 反核全国署名一斉総行動デー、日曜日に46名の職員結集（7月） 清水ヶ丘セツル診が「非核平和宣言」を決定（7月） 第2次コンピューター導入基本計画の答申が出される（8月） 反核署名地域一斉行動、74名の職員が参加（8月） 病院、エンボスカード導入（9月） 協会第2次総合計画第2次答申出る（9月） 病院全職員集会で第1次「平和英雄」として10名の職員を表彰（9月） 汐田理学診療所の建設に着工（9月） 白石ビルの会議室借用を契約し使用開始（9月） 脳卒中患者家族の会「希望の会」発足（9月） 清水ヶ丘セツル診の増改築に着工（9月） 病院が職員の反核宣言支持投票を行い「反核宣言」を決定（10月） 毎日新聞へ国家機密法反対意見広告を掲載（72名応募、10月） 小児科に首藤医師着任（10月） 三大闘争で区内労組、民主団体との懇談会開催（10月） 医師定年制を決定（12月施行） 病院増改築工事着工（11月） ニカラグア人民連帯支援カンパに取り組む（231口応募、12月） 桐山名誉院長（前理事長）定年退職（12月）</p>	<p>健保改悪反対闘争 医療法改悪・老人医療改悪反対闘争 日本共産党が非核の政府提唱 民医連が反核300万目標の署名取り組みを決定 民医連が基盤組織強化の方針を発表した</p>
1986年（昭和61年）	
<p>協会第2次総合計画第2次答申の実施計画を決定（2月） 汐田理学診療所竣工、診療開始（2月） 横浜連絡会結成10周年記念の集い（3月）</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>汐田理学診療所付属の汐田鍼灸マッサージ治療院開院（4月） 協会三大闘争委員会発足（4月） 病院の清掃業務外注委託に（5月） 老健法改悪反対で活発な国会行動（5月） 病院増改築完成し199床の使用許可（6月） 皮膚科に内藤医師着任、皮膚科全日診療体制に（6月） 「汐田病院医報」第1号発行、国会図書館登録学術誌となる（6月） 汐田理学診療所、患者さんと「健康への誘い」開催（以後毎年3回開催、7月） 事務所棟の改造工事（7月） 鶴見生活と健康を守る会が新事務所に移転（7月） 病院、眼科の診療を開始（7月）</p>	 <p>リハビリ中心の理学診療所竣工</p>
 <p>増改築が終わった 清水ヶ丘セツルメント診療所</p>	 <p>竣工式は学生ハウスで</p>
<p>清水ヶ丘セツル診の増改築竣工、開所式（7月） 汐田歯科診療所、協会内初の反核署名目標達成（3000筆、7月） 病院増改築工事の竣工式を行う（8月） 病院カルテ各科管理システムスタート（8月） 病院で許可病床204床に（8月） 横浜市よりレントゲン車払い下げを受ける（8月） 病院で第11回院内学術集談会を開催（8月） 公害指定地域解除反対の活動、公害対策委員会準備会発足（8月） 汐田薬局が事務所棟1階に拡充移転（8月） 病院、三大闘争の老健法改悪問題で老人クラブなど107団体へ申し入れ（9月） 教育担当専任職員（医学対兼任）を協会総務課人事係に配置（9月） 県連初の市大医学生訪問行動（協会から11名、9月）</p>	<p>民医連第27回総会開催（80年代前半の総括と後半の基本方針を決定） 国立病院3割削減方針が出される 東京サミットが開催される 衆参同時選挙（大型間接税導入しないとの公約で自民が結党以来最高議席） 国鉄が分割民営化に 老人保健法が改悪される 神奈川民医連横浜連絡会の結成10周年の集いが開催される</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>梶山診療所発行「待合室」、日経メディカル社主催PRコンクールで奨励賞を受ける(9月)</p> <p>耳鼻咽喉科診療を開始(9月)</p> <p>協会三大闘争、老健法改悪反対で国会行動(6波、91名参加、10月)</p> <p>公害指定地域解除に反対する学習会、はがき行動等(10月)</p> <p>社会保障学校始まる(73.5%の職員参加でかつてない成果、11~3月)</p> <p>汐田理学診療所が運動療法認定施設に(11月)</p>	
1987年(昭和62年)	
<p>病院新病棟開設、人員体制困難で169床稼働(1月)</p> <p>清水ヶ丘セツル診でオールドセツラーの会発足(2月)</p> <p>汐田病院、総合病院化認可され汐田総合病院となる(2月認可、4月稼働)</p> <p>売上税反対3・8中央集会(16万人、協会よりバス3台、140名参加)</p> <p>汐田病院、総合病院として出発、名称「汐田総合病院」に(4月)</p> <p>汐田歯科診療所、矯正歯科を開設、歯槽膿漏教室を開講(6月)</p> <p>協会「事務系(経営)幹部起用基準」策定(6月)</p> <p>教育月間、基盤組織強化方針にかつてない規模で取り組む(6~7月)</p> <p>稼働病床177床に(7月)</p> <p>肝臓病患者会「明るい肝臓の会」発足(7月)</p> <p>国保問題で区段階の懇談会(7月)</p> <p>協会事務系幹部等の移動・起用(9月)</p> <p>協会階層別教育制度決定、全職員を対象とした体系的教育制度開始(9月)</p> <p>13回健康祭りに取り組む(10月)</p> <p>初の「基盤組織強化月間に取り組む(689世帯増やし大きな成果、10~12月)</p> <p>病院デイケア開始、以後月2回実施へ(10月)</p> <p>県福祉部の「社会保険医療担当者個別指導」受ける(創立以来初めて、11月)</p> <p>国保保険証問題で県、市、区交渉を行い全員交付を勝ち取る(11月)</p> <p>「中間報告」についての学習会と運動化方針を決定、本格的な運動を開始(11月)</p> <p>友の会汐田病院支部が第1回保健講座を開催</p>	<p>厚生省が国民医療対策本部設置し中間報告を発表</p> <p>非核宣言都市が全国に広まる</p> <p>一斉地方選挙で売上税反対の声高まり自民党惨敗</p> <p>自民党竹下内閣が発足</p> <p>米ソでINF全廃条約を締結</p>
	
	<p>下野谷小学校の体育館で健康展示 校庭では運動会も実施</p>
1988年(昭和63年)	
<p>「中間報告」の学習会、各職場で実施(1月)</p> <p>友の会汐田総合病院支部が第1回保健講座(1月)</p> <p>公害保障法改悪に反対し患者会及び市従労組共々各政党及び対区交渉等を実施(1~3月)</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p> 神奈川県医連共済組合発足（2月） 国保保険料及び保険証交付等で自治体交渉及び国会行動（2～5月） 青森健生病院へ薬剤師支援派遣（3月） 清水ヶ丘セツル診で婦長制を実施（3月） 反核署名48700の自主目標突破（4月） 4・17大型間接税反対国民集会へ112名参加（4月） 「4・1診療報酬、薬価改定」、入院を中心に大打撃（4月） 清水ヶ丘セツル診糖尿病患者会「いずみ会」が発足（4月） 看学生の専任担当を協会総務課人事係に配置（4月） 看護婦確保の困難を打開するため協会看護婦確保対策本部を設置（5月） 病院の眼科医師常勤体制へ（5月） I P P N Wへ野末理事長が参加（5～6月） 医学生、看学生の総訪問行動（6月） 病院眼科常勤医師体制となり手術を開始（6月） 汐田歯科診療所で在宅医療を開始（6月） 院内学術集談会を開催（7～8月） 病院で「困った患者」の検討会を開催（8月） 9・18消費税粉碎国民大集会へ125名参加（9月） 在宅酸素、在宅経管栄養の申請（9月、10月1日に受理） 協会管理部の運営基準を一部改定（9月） 協会基盤組織強化月間（10～12月） 看護課が「新勤務サイクル」を開始（10月） 病院、塩田・磯野医師が内科認定医に（10月） 青森民医連より医療支援として小嶋看護婦着任（11月） 初めての鶴見医学会総会に演題発表（11月） 病院で適時給食を開始（6時、12月） 恒例の団結パーティーを汐田総合病院開設35周年記念として実施（12月） 全日本民医連共済組合駅伝大会へ参加（12月） 鶴見医学会総会に初めて演題を発表 </p>	<p> 「中間報告」路線貫いた診療報酬改定が実施される 大阪参院補選で自民党敗北し共産党が当選 医療法改悪により県下で駆け込み増床ラッシュに 政府が消費税法案を国会に上程 リクルート疑惑が発覚 盗聴事件が発生 厚生省が長寿社会対策推進会議を設置 国保法が改悪される 天皇の病気を利用した天皇美化キャンペーンがなされる 神奈川県医連共済組合が発足 </p>
1989年（昭和64年・平成元年）	
<p> ニカラグア人民支援カンパの取り組み（1月） 看護衛生週間で県衛生局との交渉を実施（1月） 汐田総合病院脳血管障害センターが検討委員会答申（2月） 労組と共同で天皇問題の各集会を展開（2月） 国民医療を守る共同行動協会推進本部を設置、以降署名運動等を展開（3月） 消費税廃止意見広告に100名の職員が応募（4月） 汐田歯科診療所開設10周年記念レセプション開催（4月） </p>	<p> 昭和天皇死去に伴い平成元年となる 消費税が導入される（3%） 参議院選挙で自民党が過半数を割る 川崎市長選で革新候補が勝利 </p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>みどり野診療所開設 (4月) 病棟再編を実施 (5月) 病院外来運営委員会が発足 (6月) 看護婦確保のためアピール文を公表、友の会や職員などへの働きかけを実施 (8月) 病院CTグレードアップ工事完了 (8月) デイケアで横浜博覧会の見学会実施 (8月) 「秋の行動月間」(医療改善署名、消費税廃止、平和の波、友の会拡大強化、健康まつり、協力債応募)を展開 (9~11月) 汐田薬局でコンピューター新システム稼動を開始 (9月) 病院でDSAの導入、稼動開始 (11月) 「国民医療を守る共同行動」終了、一千万署名は40084名分集約(12月)</p>	
1990年 (平成2年)	
<p>病院で老人医療問題検討委員会が発足 (1月) 汐田薬局に服薬指導室完成 (4月) 横浜市長選に対市要求掲げ奮闘 (4月) 演劇「燃える雪」公演に取り組む (4月) 国民医療を守る共同行動の取り組み開始 (5月) 全日本民医連教育月間に呼応した総会方針学習が進められる(5~6月) 協会第3次総合計画検討委員会が発足、以後継続して検討協議(6月) 「看護婦確保特別月間」を設定し奮闘 (6~7月) 協会三大闘争委員会が改組し「協会社保闘争推進本部」が設置されその方針のもとで医療法学習会が開催される (7月) 老人署名で区内老人クラブ申し入れ活動などにより5千名分を集約 (8月) 共同組織強化月間を開始、病院に推進委員会を設置 (10月) 「即位の礼」に関して全職員学習会を実施 (10月) 看護婦増員を求める全国統一行動に延べ150名以上の職員が参加 (11月) PKO法案に反対する運動を展開 (10~11月) 医療改善署名21305名分を集約 (12月)</p>	<p>総選挙で自民党が議席を減らす 診療報酬及び薬価の改定が実施される 鶴見区国保問題懇談会が再開される 国民保険法改悪が成立した 医療法改悪案が継続審議に 消費税をなくす全国の会が発足した 看護婦不足が大きな世論になる</p>
1991年 (平成3年)	
<p>湾岸戦争反対で緊急区民集会参加等一連の運動に取り組む (1月) 「革新県政をつくる協会関係者の会」を発足させ候補者土屋県連会長勝利のため奮闘 (2~4月) 老健法改悪反対署名運動を開始し地域懇談会にも取り組む (2月) 新入職員入職前合宿研修に初めて取り組む (3月) 高校生看護婦一日体験に過去最高の81名参加 (4月) 老人保健法改悪反対署名9千名 (4月)</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>梶山診療所所長に野本医師に (5月) 病院、産婦人科外来等改造工事 (6月) 小選挙区制反対の運動開始、鶴見区連絡会が結成 (6月) 病床稼働増188床に (7月) 雲仙岳被災者救援募金に取り組む (7月) 24時間テレビ「愛は地球を救う」で病院在宅医療活動が放映される (7月) 小選挙区制に反対する鶴見区連絡会が結成される (8月) 老健法改悪及び小選挙区制に反対し運動に取り組む (8月) 協会協力債の取り組み進む (9月) 基盤組織強化月間を開始、病院友の会委員会が発足 (10～12月) 診療報酬改善求め職場学習、対話運動開始 (10月) 秋の総合月間 (基盤組織強化、診療報酬改善、健康まつり、待遇改善、社保課題) に取り組む (10月～) 協会第3次総合計画推進本部委員決定し、以後事業計画等の検討を開始 (10月) 国保証未交付問題で対市交渉参加 (11月) 診療報酬改善もとめる対話、はがき運動開始 (12月) 基盤組織強化月間で632世帯拡大 (12月) 病院でMR Iが設置され稼働開始</p>	<p>湾岸戦争始まる 老人保健法が継続審議になる 救急救命士法が成立した 高額医療費制度自己負担額が6万円になる 医療法改悪案が継続審議に ソ連でクーデター発生しソ連邦解体、ソ連共産党も解散した 老健法改悪案が成立し翌年1月施行へ 小選挙区制が廃案になる 自民党宮沢内閣スタート PKO法案が継続審議となる</p>
1992年 (平成4年)	
<p>民医連関東甲信越診療録管理研究会が協会で開催される (1月) 協会4週6休制実施案を発表 (1月) 協会総合計画具体化に向け病院の外来各小委員会スタート (2月) 白内障眼内レンズ医療費助成をもとめる運動に取り組む (1月～) 看護婦確保法制定もとめる国会行動に参加 (3月) 全日本民医連方針学習を中心とした教育学習月間 (4～5月) に取り組む 診療報酬及び薬価改定され外来収入に影響大 (4月) 医療改善署名運動を開始 (4月) 「永年勤続者リフレッシュ制度」開始 (4月) 協会育児休業制度実施 (4月) 第3次総合計画で理学診療所隣地活用の構想固まる (5月) 友の会汐田支部が「地域ブロック」確立方針を決定 (5月) 医療法改悪反対運動開始 (5月～) P K O協力法案阻止の運動盛り上がる (5月) 4週5休制はじまる (6月) 病院11床増床で稼働188床に (7月) 脳血管障害センターが一日検査コース開始 (7月) 病院で「ノー残業デー」として火曜日夜診を廃止 (7月)</p>	<p>脳死臨調が脳死を「人の死」と認める答申が出される 横浜市が白内障眼内レンズ医療費助成を5月から開始した 健保法改悪案が成立した 育児休業法施行実施される 自民党金丸副総裁がヤミ献金で略式起訴に 「老人病院」基準65才60%に引き下げられる</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表



協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>友の会会員総訪問行動(健診呼びかけ、アンケート活動)を展開(7月) 病院が第5木曜を「文化スポーツの日」に(7月) 汐田理学診療所隣地建設で新たな建設債募集を開始(8月) 病棟看護労働実態調査に取り組む(8月) 共同組織強化月間に取り組む(10~12月) 汐田薬局で処方箋受付機と表示機設置(11月) 診療報酬改定求め他病院との対話行動、全戸配布、地域訪問行動を展開(12月)</p>	
1993年(平成5年)	
<p>看護婦充足に向け友の会全世帯へ郵送、電話行動(1月) 病院で精神科外来を開始(1月) 全日本民医連方針に基づき協会社保学校の取り組みを開始(2月) 共同組織強化月間として170の新たな世帯を拡大(3月) 副理事長、佐々木登氏逝去(4月) 医療改善署名5万目標で取り組み開始(4月) 小選挙区制反対運動を展開 理学診隣地建設で各事業毎の具体的実施計画検討を開始(5月) 病院で待ち時間の実態調査(5月) 小選挙区制反対、医療改善署名運動の日刊ニュース「倒せ!ミヤマンダー」(後に「ザ・ゴマン」と改題)を発行(6月)、継続発行され100号を突破 理学診隣地起工式、建設工事開始へ(6月) ニセの政治革新を許さず小選挙区制の火種をなくし医療と職員の要求を実現させる立場から衆議院選挙をたたかう(7月) 医療改善と結合した医療懇談会を開催(7月) 社保学校75%の職員が受講終了(8月) 病院で高圧酸素療法機器据付完了(8月) ボランティア講座開催へ、受講申し込み52名に(9月) 病院薬局で400点業務の開始(8月) 共同組織強化月間を開始(10~12月) 医療改善署名35000名を超える(10月) 川崎革新市政を守る選挙支援(10月) 病院で高速CT導入し稼働開始(10月) 病棟機能再編、看護業務改善、夜勤2交替制方針案を提起、論議開始(11月) 病院創立40周年記念式典、歌とふれあいの夕べを開催(12月)</p>	<p>宮沢内閣の不信任案が可決され総選挙が行われる 総選挙で自民党が過半数を割り細川連立内閣が発足 政党助成法が浮上 米不足が深刻に 赤字病院が全国で7割を超えるなど病院経営が悪化 病院給食を保険外とする報告案を医療保険審議会が提出</p>
1994年(平成6年)	
<p>汐田理学診療所を増改築し「汐田ヘルスクリニック」に名称変更(4月) 4・20社保危機突波中央集会に友の会含め職員が参加(4月)</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>以後社保運動を通年的に展開 歯科診で患者アンケート実施（6月） 病院で院長外来を開始（6月） 病院で病床6床増の工事開始、医療社会科引越し（7月） 保険で良い入れ歯実現めざす緊急署名に取り組む（8月） 6床増で稼動病床198床に（8月） 汐田総合病院建設計画検討委員会発足（8月） 入院給食自己負担への自治体助成もとめる運動に取り組む（9月） 出資金（基金）に関する答申により、出資金制度を開始（9月） 精神科の医師着任し本格的な診療活動開始（10月） 汐田歯科診が日曜健診を開始、以後毎月実施へ（10月） 看護婦めざす高校生サークルがスタート（10月） 入院給食「選択メニュー」を開始（10月） ヘルスクリニックがデイケアバスハイクを実施（11月） 病院、特Ⅲ類基準看護承認に（12月）</p>	<p>羽田新政権発足、その後総辞職し村山連立内閣に 国保証未交付等不当な取り扱いが全国的に増加した 羽田内閣総辞職し、村山連立内閣が発足した 入院給食有料化・付添看護廃止等の健保改悪が強行採決した 薬害エイズの被害世界的に 消費税5%増税法案が可決成立した 横浜市乳幼児医療費助成制度拡充を求める区連絡会発足した</p>
1995年（平成7年）	
<p>阪神大地震被災者救護活動を全日本民医連の訴えに基づき現地への救援支援、カンパ活動に取り組む（1月） 病院でスプリンクラー設置工事完了（3月） 院所独立会計制度開始、部門別損益管理も導入（4月） ヘルスクリニックで介護教室実施（4月） 医療改悪に反対する署名、団体申し入れ、各種集会参加、宣伝行動に通年で旺盛に取り組む 精神科レクレーションで三ツ池公園へ（5月） (株)ビューメディカ「汐田薬局」としてスタート（6月） 協会総務課移転（6月） 看護婦確保と区別月間に取り組む（8月） 病院業務改善制度準備で小委員会設置（8月） 感染委員会がMRSA感染対策基準改定（9月） 汐田歯科診が新施設に移転（10月） いのちと暮らし、憲法と平和擁護の「国民大集会」に友の会会員と職員107名参加（11月） 病院「業務改善制度」スタート（12月）</p>	<p>阪神大地震発生する 自治体病院の74%赤字との報道 東京地下鉄サリン事件が発生、横浜駅「悪臭」事件おこる フランスが南太平洋で核実験を再開した 介護休業法が成立した 厚生省4年連続病院数減少を発表 横浜市ゴミ回収を民間委託に</p>
1996年（平成8年）	
<p>介護保険学習会を他団体、地域に呼びかけて実施（1月） 診療所建設検討委員会発足（2月） 薬害エイズ全面解決めざし厚生省すわり込み行動に参加（2月） うしおだ訪問看護ステーション開設（4月）</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>介護保険含め医療制度全面改悪に反対するたたかいを全職員の奮闘で通年的に展開</p> <p>協会H I V訴訟を支援する会が発足（4月）</p> <p>全日本民医連総会方針の全職員学習実施（ニュース発行7回、6月）</p> <p>病院で治療中断患者訪問行動を実施（6月）</p> <p>各院所毎の院所利用委員会発足に向けた検討を開始、以後具体化される（7月）</p> <p>協会反核平和委員会を発足し以後各種運動を展開（7月）</p> <p>県連第1回共同組織交流集会へ職員含め75名参加（7月）</p> <p>沖縄基地撤去県民投票支援に新聞意見広告等取り組む（9月）</p> <p>医療改悪反対、悪政阻止等を目的に友の会会員宅署名郵送作戦（1万通、10月）</p> <p>病院で入院患者アンケート実施（12月）</p>	<p>「薬害エイズ」東京地裁で和解が成立</p> <p>医療費削減を意図した診療報酬改定実施した</p> <p>高齢者世帯60万世帯、1人暮らし220万人と厚生省発表した</p> <p>「O157」が全国で多数発生</p> <p>中国が核実験を強行</p> <p>区社保協が結成された</p> <p>小選挙区制導入後初の総選挙で共産党が前進</p> <p>基地反対の沖縄県民大会へ22000人参加</p>
1997年（平成9年）	
<p>相模原市長選挙で中屋候補勝利に向け支援活動（1月～）</p> <p>汐田脳とこころのクリニックを開設（1月）</p> <p>協会第1回学術運動交流集会を開催（2月）</p> <p>三大闘争（社保、消費税、安保沖縄）、大改悪阻止のため署名宣伝、国会行動等取り組みを強める（4月）</p> <p>沖縄連帯集会に代表派遣（4月）</p> <p>新病院建設に向けプロジェクトチームを開催（5月）</p> <p>みどり野医療協会（みどり野診療所）と合併（6月）</p> <p>医療改悪反対で「まとめ」の交流集会（7月）</p> <p>県連ピースジャンボリーに144名参加（7月）</p> <p>職員の結核健診を実施（7月）</p> <p>老人慢性疾患外来総合診療料算定の届出を各診療所で実施（8月）</p> <p>医療保険改悪反対で早朝駅頭宣伝、医療相談活動等を展開（9月）</p> <p>「保険あって介護なし」の法案反対の取り組み（10月）</p> <p>川崎市市長選・土屋候補勝利のため支援活動（10月）</p> <p>県社保協主催医療110番に参加協力（10月）</p> <p>「絆をつくる町」横浜公演に組織的に取り組む（10月）</p> <p>職場教育活動報告書提出活動開始（12月）</p>	<p>区社保協「介護医療の現在と未来を考える」シンポ開催</p> <p>消費税増税・所得減税打ち切り・健保改悪で9兆円も国民負担増となる予算が成立した</p> <p>実質マイナスとなる診療報酬改定が実施された</p> <p>消費税5%が導入された</p> <p>米軍用地特別措置法が強行可決された</p> <p>臓器移植法が可決された</p> <p>医療保険改悪法案が強行可決された</p> <p>レセプト開示を厚生省が県に通達</p> <p>日米政府「新ガイドライン」で最終合意がなされる</p> <p>医療保険改悪実施・全国的に患者減・治療中断等悲惨なケースが続出</p> <p>安田病院事件が発生し反医療キャンペーンが行われる</p> <p>金融・証券会社相次いで倒産</p> <p>財政構造改革法案が成立した</p> <p>介護保険法案が成立した</p>
1998年（平成10年）	
<p>市民の市長をつくる会に結集して森候補勝利のため奮闘（2月～）</p> <p>新病院建設用地を取得、直ちに協会建設本部を設置（2月）</p> <p>新病院建設に向け職場要求集約と基本構想・基本計画づくりを開始、ニュースも発行（3月）</p> <p>清水ヶ丘セツルメント診療所長・井上医師に（4月）</p>	<p>倒産急増、失業一層深刻になる</p> <p>入院医療費定額払導入が開始された</p> <p>30兆円の銀行支援法が成立した</p> <p>病診間格差拡大、長期入院患者締め出しの診療報酬改定がなされる</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>医療改悪反対署名15500名分に（4月） 病院で業務改善制度年間賞決定（4月） 4・17国民大集会へ友の会会員含め115名が参加（4月） 医療制度及び介護保険に関する医療懇談会を地域等で以後通年的に開催（4月） 新病院建設用地の測量及び地質調査終了、現地事務所を設置（5月） 新病院建設ダイジェスト版を作成活用を開始（6月） 職員結核健診スタート（6月） 友の会矢向地域で「暮らしとからだ」手配付開始（7月） 新病院建設第2次図面に関して他団体との懇談・説明会を実施（7月） 介護保険検討委員会発足し事業化の検討開始（8月） 友の会会員、職員が矢向地域訪問行動（9月） 矢向地域現地事務所へ常勤職員配置（9月） 健康まつり台風のため初めて中止に（10月） 東京民医連太田歯科へ歯科医師支援開始（10月） 入院医療費引き上げに対する抗議集会を開催（10月） 介護支援専門員（ケアマネージャー）協会で14名合格（11月） 全日本民医連提起に基づく要介護老人実態調査に取り組む（11～12月） 協会医療宣言委員会提起に基づき「私と民医連」のアンケート及び懸賞論文に取り組む（12～2月）</p>  <p>新病院建設地で職員が「ゆめ」の人文字</p>	<p>横浜市市長選で森たくじ候補善戦 国民医療費初めて前年割れと厚生省発表 インド及びパキスタンが核実験を強行した 診療録の開示の法制化が行われた 参議院選で自民党惨敗し民主・共産両党が議席を増やす 日医・歯科医・薬剤師会三者が薬剤費二重負担廃止求め政府に要求した 川崎公害裁判で勝利を勝ち取る 介護保険料の年金天引きを発表 インフルエンザが大流行 横浜市社保協が発足した 臓器移植がはじめて実施される</p>  <p>新病院建設地で友の会活動がはじまりました</p>
<p>1999年（平成11年）</p>	
<p>医療宣言づくりのため民主団体、理事構成団体との懇談会開催（1月） 協会健診事業連絡会発足（2月） 民主県政実現めざし協会県民の会を再発足させ以後取り組みを強化（2月～）</p>	

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>「医療改悪反対」「誰でもが使える介護保険」の署名、駅頭宣伝行動、医療懇談会の取り組みを強める（緊急署名11950筆、4月）</p> <p>医療・福祉宣言作りに向けて職場での討議が始められる（4月）</p> <p>ガイドライン法案反対で病院前で抗議集会を実施（4月）</p> <p>新病院建設のため近隣の個別訪問、集団説明会に取り組む</p> <p>新病院の各システムの検討、関連施設の医療計画検討委員会が発足（6月）</p> <p>みどり野診10周年記念行事「10年のあゆみ」に450名が参加（6月）</p> <p>医療宣言づくり交流会で「医療・介護・福祉宣言（案）」の発表、「私と民医連」の個人論文の表彰も行われる（6月）</p> <p>介護保険事業化推進プロジェクト発足（6月）</p> <p>野末理事長退任し川崎博通院長が理事長就任（6月）</p> <p>病院院長に窪倉孝道医師が就任（6月）</p> <p>ヘルスクリニックで介護者との懇談会を実施（50名、7月）</p> <p>理事会で南横浜医療協会との合併確認される（7月）</p> <p>コンピューター2000年問題に対応するため対策委員会を発足（9月）</p> <p>介護保険の認定審査の開始に向け駅頭宣伝（署名13000筆）</p> <p>すべての施設で「介護保険問題の相談窓口」開設（10月）</p> <p>汐田介護支援事業所開設（10月）</p> <p>みどり野訪問看護ステーションを開設（10月）</p> <p>訪問看護ステーション三ツ池の開設（11月）</p> <p>「21世紀みんなでつくろう、みんなの病院・老健施設建設着工記念の集い」開催（一部記念式典・二部ロック民謡、11月）</p> <p>老健の名称を公募し「うしおだ老健やすらぎ」となる</p> <p>南横浜医療協会清算終了報告集会開催される（12月）</p> <p>みどり野介護支援事業所開設（12月）</p> <p>友の会新つるみ支部が結成される（56名の参加）</p>	<p>老人保健外来一部負担530円</p> <p>入院一部負担一日1200円に改悪される</p> <p>厚生省「新高齢者医療制度」（患者負担の定率方式）の検討開始</p> <p>「介護保険」の保険料、利用料の案が提示される</p> <p>完全失業率4.8%と過去最悪となる</p> <p>「ストップ戦争法5.21全国集会」に5万人を超える人々が結集した</p> <p>厚生省、結核の集団感染発生の急増から「緊急事態宣言」を出す</p> <p>横浜市、徘徊高齢者の一時保護制度を廃止させる</p> <p>臓器移植がはじめて実施される</p> <p>神奈川県警の不始末事件が続出</p> <p>厚生省がカルテ開示法制化案、医師の卒後臨床研修必修化などの医療法改定案を医療審議会に提出</p> <p>年金改悪法が継続審議となる</p> <p>指定居宅支援事業者の申請が開始された</p> <p>横浜市社保協が発足</p>
<p>2000年（平成12年）</p>	
<p>病院建設・老健施設くい打ち工事完了、工事本格化（1月）</p> <p>「戦争法協力拒否宣言医療機関」の看板を各施設に掲示（1月）</p> <p>地域の民主団体や友誼団体と医療宣言で交流会を開催（2月）</p> <p>新病院建設地、矢向地域での宣伝訪問活動を実施（2月）</p> <p>社会福祉法人設立準備会の検討を開始する（4月）</p> <p>老健施設の開設説明会を開催（4月）</p> <p>介護保険の開始にともない汐田、みどり野、三ツ池訪問看護ステーション、うしおだ介護支援センターが開設される（4月）</p> <p>新病院建設工事棟上が行われる（6月）</p> <p>ヘルパーステーションうしおだ5月に開設し、ヘルパーの派遣開始（6月）</p> <p>病院を中心に全職員を対象とした「接遇研修」開始（12月）</p> <p>全日本民医連「居宅介護実態調査」に全職員で取り組む（12月～）</p>	<p>自公与党三党による「衆院定数削減法案」の強行採決が行われる</p> <p>神奈川県介護保険審査会が介護認定に対する不服申し立てを認め認定の取り消しを命じる</p> <p>野党や国民世論の反対を押し切り年金改悪法が衆議院で強行採決される</p> <p>介護保険の導入、10月から65才以上への介護保険料徴収はじまる</p> <p>診療報酬の改悪が行われ医療経営に大打撃</p> <p>年金改悪法が強行採決される</p> <p>コムスンなど民間企業が介護保険事業に参入</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
2001年（平成13年）	
<p>協会第4次総合計画づくりスタートする（01年～11年の10年間）</p> <p>新病院内覧会に3134人が参加（2月）</p> <p>汐田脳とこころのクリニック廃止（3月）</p> <p>新病院および老健やすらぎの開所式の実施（3月）</p> <p>鶴見区矢向に新病院新築移転（4月）</p> <p>同時にオーダーリング導入、老健やすらぎ開設（4月）</p>  <p style="text-align: center;">旧病院から新病院へ救急隊の協力を得て移送</p> <p>旧病院跡に汐田診療所開設（4月）</p> <p>新病院とうしおだ老健やすらぎの開設祝賀会を開催（4月、750名参加）</p> <p>「医療改悪反対」「介護保険の助成条令を求める」署名、宣伝、医療懇談会等を強める（4月）</p> <p>汐田ヘルスクリニックの改修工事開始（4月）</p> <p>訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、介護支援センターを汐田診療所2階に移転（5月）</p> <p>居宅介護支援事業3事業を統合した、うしおだ在宅総合センター開設（6月）</p> <p>第1回出資金推進委員会開催、今後3年間の目標確認（6月）</p> <p>病院「母親教室」を再開し、4年ぶり分娩開始（7月）</p> <p>鶴見区社保協、区の保険年金課と国保証更新問題で懇談を行う（区は2969の国保証返還請求兼警告書を発送する、8月）</p> <p>汐田診療所1患者1カルテへ変更する（8月）</p> <p>理事会で「同時多発テロを理由に憲法を無視した自衛隊の海外派兵、戦争参加に厳重に抗議する」決議を採択し日米両政府に送付する（9月）</p> <p>医療改悪阻止大学習決起集会を開催、医療懇談会も延べ40回開催される（10月）</p> <p>国保問題で鶴見区交渉を行う（11月）</p>	<p>老人医療費の一部負担増（70歳以上の窓口負担定率制導入）はじまる</p> <p>政府は少子高齢化による財政悪化を理由に高齢者にも応分の負担を求める「社会保障改革大綱」をまとめる</p> <p>ハンセン氏病、国の賠償責任判決に政府が控訴断念</p> <p>参議院選挙小泉人気に支えられ自民党が圧勝した</p> <p>介護保険料10月から2倍になる</p> <p>横浜市65才以上の高齢者を対象にインフルエンザ予防接種に独自の助成制度を実施する</p> <p>介護保険料減免実施の自治体が全国で310市町村へ半年間で2.2倍に増加した</p> <p>厚生省、今後10年で入院ベット数を半分程度の50～60万床に削減する方針を打ち出す</p>  <p style="text-align: center;">矢向に完成した新病院</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
2002年（平成14年）	
<p>看護婦寮エクセルプラザ江ヶ崎完成（2月）</p> <p>市は鶴見区下末吉いすゞ跡地に500床の病院開設を発表、医師会に結集し対応（3月）</p> <p>医療改悪反対の署名、宣伝、医療懇談会の取り組みを強める（4月）</p> <p>社会福祉法人うしおだ設立（4月）</p> <p>病院が回復期リハ病棟開設準備プロジェクトによる取り組みをはじめ（5月）</p> <p>グループホーム菜の花の家開設（5月）</p> <p>汐田ヘルスクリニック重度痴呆デイケア開始（5月）</p> <p>新病院地域で第1回のふれあい健康まつり開催（5月）</p> <p>理事会で倫理委員会準備会の設置決まる（7月）</p> <p>川崎協同病院事件内部調査委員会報告・同外部評価委員会報告の学習に取り組む（8月）</p> <p>老健やすらぎ夏祭りを多くのボランティアと地域の協力で開催（8月）</p> <p>医療改悪問題講師養成講座開催（50人参加、10月）</p> <p>病院回復期リハ病棟開設（10月）</p> <p>精神障害者ヘルパー養成講座を開講する（11月）</p> <p>汐田診療所3、4階開設準備委員会を立ち上げる（12月）</p>	<p>診療報酬の初めてのマイナス改定行われる</p> <p>厚生労働省が独立保険方法の高齢者医療制度導入の検討をはじめ</p> <p>医療改悪法案が自公保により採決強行、10月から高齢者の定率制、03年4月からの本人3割負担となる</p> <p>川崎協同病院の気管内チューブ抜去による死亡事件が明るみになる</p> <p>4月時点で区内の国保資格証発行が2883世帯になる</p> <p>横浜市が政令都市第一位の350万の人口になる</p> <p>国民生活基礎調査で700万の高齢者世帯、うち1人暮らしが345万世帯、1世帯平均の児童数が1.74人と過去最低であることが明らかに</p> <p>過労死が160件と過去最高に</p>
2003年（平成15年）	
<p>汐田診療所ショートステイ、デイケア開設の工事開始（1月）</p> <p>介護関連施設での4週8休の試行実施を開始する（1月）</p> <p>汐田診療所の小児科外来を廃止する（1月）</p> <p>吉村民主県政実現めざし「事業所の会」立ち上げ奮闘（4月～）</p> <p>健保本人3割負担実施に対する抗議行動等を実施、アメリカのイラクへの軍事攻撃の即時中止を求める取り組みを進める（4月）</p> <p>協会倫理委員会発足（4月）</p> <p>なんぶ診移転建設に向け出資金の呼びかけ開始（4月）</p> <p>ヘルパーステーションみどり野開設（4月）</p>	<p>健保本人3割負担となり、開業医の6割が患者減になる</p> <p>診療報酬マイナス改定</p> <p>介護報酬も引き下げに</p> <p>有事関連法案が衆議院を通過</p> <p>横浜市が無料敬老バス廃止に</p> <p>総報酬制導入で保険料負担が大幅に増加した</p>
 <p>病院地区での健康まつり</p>	 <p>駐車場 一杯の人です</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>病院が接遇改善月間の取り組みを開始 (5月) 汐田診療所デイケア開始 (5月) 職員旅行を実施、以後も実施を続ける (5月) 汐田診療所ショートステイ開始 (6月) みどり野診くすりの訪問配達を開始 (6月) 病院が地域消防協定に取り組み調印 (7月) 病院全館禁煙開始、受け皿となる禁煙外来も開始 (7月) 病院が土曜日午後の診療を開始 病院療養病床開設、在宅支援病床開設 (7月) 老健が第三者プロジェクトを発足させる (7月) 国保料引き下げ、減免制度拡充を求める請願書を市社保協とともに市議会に提出また敬老パス有料化凍結の請願署名に取り組み市議会に提出 (9月) 第2回精神障害者ホームヘルパー講習会開催 (20名、10月) 汐田診がイラク戦争写真展を開催 (10月) 病院が医療機能評価受審に向け取り組みを開始 (11月～) 清水ヶ丘セツルメント診が院外処方箋発行を開始 (12月) 協会創立50周年記念祝賀会を開催 (180名参加、12月) イラク派兵反対で集会参加、署名、新聞意見広告に取り組み (12月) 区社保協と共催で国保問題学習懇談会を開催 (12月)</p>	<p>アメリカがイラクへの軍事攻撃を開始、反戦運動が世界的に広まる イラク特別措置法案が国会で強行採決される (自衛隊派遣) 全国で自殺者が3万人を超える (健康問題がトップ) 国保料の滞納世帯が19.2%になる 国保資格証明書発行鶴見区で4000件となる 多額の負債による自己破産が急増 生保世帯が128万世帯と前年比で8.4%と急増 横浜市の人口350万人を突破した</p>  <p>創立50周年で挨拶する川崎理事長</p>
2004年 (平成16年)	
<p>梶山診療科が土曜日午後、木曜日隔週午後の診療開始 (1月) なんぶ診療所、野末所長から吉村所長に交代 (1月) 創立50周年記念の集いを開催 (800名参加、1月) 04年予算・国保問題に関する請願書を各施設で提出 (2月) 病院医療機能評価を受審 (2月) 青年職員主催による憲法学習会「イラク報告会-今、語りたい、イラクのこと」開催 (6月) 全国大気汚染測定活動に各事業所が取り組む (6月) 「9条の会」が発足講演会を開催 (7月) 汐田総合病院で接遇改善月間を設定 (7～9月) グループホーム菜の花の家が、第三者評価を受審 (7月) 協会グループ活動交流集会開催 (9月) 病院医療機能評価認定 (10月)</p>	<p>介護保険「要支援」の利用者の保険適用を制限 給付の引き下げと保険料値上げの年金改悪法案、自・公が参院で強行採決する 7月の参議院選挙で自民、民主の二大政党が議席の88.2%を占める結果となった 8月16日米軍ヘリ墜落事故が発生 10月新潟中越地震発生民医連が200名の医療支援を行う</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>なんぶ診、経営改善として午後の診療を縮小、医師の単位支援を行う（11月） 病院療養型病床43床の増床が認可（11月） 梶山診療所開設25周年の集い開催（12月） みどり野診の新築移転用地を横浜市の入札により確保（12月） 梶山診療所25周年の集い開催（500名参加、12月） 病院療養病棟開設第1回建設委員会を開催（12月）</p>	
2005年（平成17年）	
<p>病院が医療・施設構想検討委員会を設置（1月） 辺野古海上へり基地建設反対運動への支援・連帯行動に職員派遣（1月） なんぶ診、成田医師が新所長として着任（4月） ニューヨークで開催される核不拡散条約再検討会議に職員を派遣（5月） みどり野診療所地鎮祭を行う（7月） 病院敷地内完全禁煙開始（8月） 病院療養病棟地鎮祭を行う（8月） 協会9条の会発足の集いを開催（9月） ヒューメдикаで青年職員が呼びかけの中心となり「9条の会」が発足（10月） 友の会で「保健大学」を開講し42人が受講（10～3月） みどり野診療所「建設を成功させるつどい」開催（44名参加、10月） なんぶ診久保木医師が新所長に就任（11月） NPO法人ふれあい友の会設立総会を開催（12月） 法人「看護師・介護職員確保対策本部」を設置（12月） 汐田ヘルスクリニック「9条の会」を結成（12月） 病院管理型臨床研修指定病院取得準備会を発足（12月）</p>	<p>自民党は現行憲法を全面否定し新憲法草案に着手していることが報道される 個人情報保護法が4月に施行した 施設入所者のホテルコスト負担増となる 新予防給付制度への移行等の介護保険改悪法案が成立した 全国でアスベスト被害広がる 8月の衆議院選挙で自民党が300議席と大勝した</p>
2006年（平成18年）	
<p>病院サテライトキッチン完成、ニュークックチルによる病棟への食事の配膳始まる（1月） 介護保険シンポ開催（参加130人、2月） 梶山診療所にて、友の会「送迎サークル」がスタート（2月） 新築移転みどり野診療所内覧会開催（180名、3月） 横浜市長選で「市民の市長をつくる協会の会」を立ち上げ松川候補を推薦し選挙に取り組む（3月） 病院療養病棟開設（247床へ、4月） みどり野診療所・みどり野訪問看護ステーション新築移転（4月） 汐田診療所・友の会9条の会結成（4月） NPO法人「ふれあい友の会」が神奈川県より正式に認証（4月）</p>	<div data-bbox="865 1594 1377 1973" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1136 1980 1377 2007">療養病床開設。247床へ</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>県連事務幹部移動で小嶋専務理事が川崎医療生協へ（6月） 汐田診療所オーダーリング導入（6月） 汐田総合ケアセンター稼動開始（6月） うしおだ在宅クリニック開設（7月） 三ツ池訪問看護ステーション病院地域に移転（7月） 清水ヶ丘セトル診と友の会支部で「9条の会」発足（8月） 病院脳卒中ユニット開設（9月） 病院9条の会が発足（9月） 汐田診療所ショートステイ廃止（12月）</p>	<p>国民保険証の取り上げによる受診抑制で全国で21名が死亡していたことが全日本民医連の調査で明らかになる 日米政府が横須賀に原子力空母の10月配置を発表 4月から診療報酬、介護報酬のマイナス改定 障害者自立支援法が施行される 禁煙への治療、指導が保険診療の対象に 70歳以上の負担の引き上げがあった 混合診療の拡大 療養病床の6割減などの医療改悪関連法案が自民公明により可決・成立した</p>
2007年（平成19年）	
<p>神奈川県知事選挙で「民主県政をつくる協会関係者の会」を発足し嶋居候補を推薦し選挙に取り組む（1月） 汐田ヘルスクリニックの健診事業を汐田診療所健診部に移行（1月） 病院1.5T-MRI導入（2月） 病院医師臨床研修開始（4月） 鶴見区内の潜在看護師対象に「カムバックナース」の取り組みが行われた（10名、1月） 社福グループホームひまわりの家開設（4月） 病院外来救急病棟・障害者病棟開設（5月） 4・6階病棟の10対1入院基本料届出（5月） 汐田ヘルスクリニックでハッピーマンデーでの通所リハ開始（7月） 病院1階病棟開設（一般病床2床、8月） 病院マルチスライスCT導入（10月） 鶴見工業高校跡地に高齢者福祉施設を求める署名を提出（合計13770筆、11月） 緊急経営改善アピール「情勢に打ち勝ち、患者・利用者を守るため経営改善に全力で取り組みましょう」を役職員に通達（11月）</p>	<p>1年以上国保の保険料滞納し保険証を取り上げられ、資格証明書が発行された世帯は35万世帯に上り、過去最悪を更新した 東部病院が開設された 9条改憲の条件づくりを狙った改憲手続き法が自民、公明の賛成多数で可決・成立した 参議院選挙で自民党が惨敗し民主党が大躍進した 中越沖地震発生カンパ活動に取り組む</p>
2008年（平成20年）	
<p>横福協グループ学術運動交流集会「医療と介護の安全性について」開催（135名、3月） 汐田総合ケアセンター開設記念講演会を開催（行政、医療機関、介護事業所から101名、3月） なんぶ診療所閉鎖（3月） みどり野訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・介護支援センターを社福に移管（4月） 地域民主団体と共に鶴見平和フェスティバルを開催（参加者1000人、5月）</p>	<p>75歳以上を対象とした「後期高齢者医療制度」が4月から実施される 昨年1年間で自殺した人の数は3万人超過した 政府は深刻化する医師不足対策として大学医学部の定員引き上げを決める 多くの市民の抗議の中、米原子力空母「ジョージ・ワシントン」が横須賀基地に配備した</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>友の会定期総会で倉崎会長が退任し宮下泉氏が就任（5月） 汐田診療所耳鼻科外来を汐田総合病院に統合（3単位、6月） 病院レセプト電送を開始（7月） 病院DPC準備病院として届出（7月） 協会各診療所にAEDを設置（7月） 汐田診療所、在宅クリニックでレセプト電子請求開始（8月） 全管理者会議が「経営の到達点の共有と、患者確保、健診受診者の組織化、看護師の確保など経営課題の具体化、共同組織拡大月間を含む秋の取り組みについて意志統一すること」を目的に開催される（9月） 病院PACS導入（12月）</p>	<p>親の国保証取り上げで無保険状態になっている中学生以下の子供が全国で32903人、県内で4000人以上に上ることが厚労省の調査で判明した 横浜市119番通報に「コールトリアージ」導入</p>
<p>2009年（平成21年）</p>	
<p>第一回新汐田診療所建設準備委員会を開催（3月） 三ツ池訪問看護ステーション・汐田訪問看護ステーション、ヘルパーステーション・介護支援センターを社福に移管（4月） みどり野診、在宅支援診療所となる（4月） 全日本民医連綱領改定草案学習会を開催（52名、4月） 「派遣村」に医師、SWなど9名が参加（5月） 梶山診療所、整形外科外来を開始（5月） 友の会定期総会で会則の改定や支部運営規定を改定、新名称は「よこはま健康友の会」となる（5月） 横浜派遣村に医師、看護師など参加（6月） 汐田診療所、汐田ヘルスクリニックはデイケアの食事をセントラルキッチンに移行（6月） 医療機能評価受審（9月） 病院患者満足度調査実施（11月） 病院で臨時全職員集会「病院の現経営状況の報告と経営改善の問題提起」開催（11月） 年末派遣村に医師、看護師、SW、事務が参加（12月）</p>	
<p>2010年（平成22年）</p>	
<p>病院DPC・7対1入院基本料運用開始（4月） 第2回地域のケアマネ学習会「知っておきたい脳卒中の知識」開催（14事業所27名参加、3月） 川崎理事長退任、窪倉孝道院長が理事長就任（5月） 汐田総合病院療養病床2床増床認可（249床となる） 水俣病検診に医師、看護師ら4名派遣（7月） 病院野球部が神奈川県病院協会野球大会で一部準優勝（8月） 地域のケアマネ学習会「訪問歯科と口腔ケア」（32人参加、9月） 新汐田診療所建設用地売買契約を結ぶ（10月）</p>	<p>名護市長選挙で辺野古への移設に反対する稲嶺氏が当選した 横浜市疾患別救急を開始（脳血管疾患、整形外科） 厚労省は全国の病院勤務医が約18000人不足との調査結果を発表した</p>

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
横浜市外国人健診に放射線技師派遣（10月） 協会グループと友の会合同の「新診療所」周辺地域訪問行動を行う（71人、487軒訪問、11月） グループ看護介護活動交流集会開催（12月） 鶴工跡地を考える会が横浜市と懇談（21名参加、12月）	
2011年（平成23年）	
病院で地域のケアマネ学習会「疥癬について」開催（1月） グループ学術運動交流集会「慢性疾患医療」（160人参加、2月） 病院「人権を守る月間」で訪問行動に21人参加（2月） 病院院内保育室「しおかぜ」開設（2月） 厚労省「臨床研修訪問調査」臨床研修や卒後医学教育のロールモデルになると好評価を受ける（3月） 震災後全日本民医連の呼びかけで被災地への支援活動と募金に取り組む（27名、300万円、3～4月） 病院で原発事故による電力不足からの計画停電始まる（3月～） 厚労省の「臨床研修訪問調査」を受け入れる（3月） 汐田鍼灸院閉院（3月） 病院で健診外来開始（乗杉医師、5月） 医師総会開催、臨床研修病院継続のために「入院患者3000人達成の課題について」（5月） 病院が関東甲信厚生局の施設基準等に関わる適時調査を受ける（5月） NPOふれあい友の会の定期総会で宍戸理事長が退任し安食慶彦氏が就任（5月） 梶山診療所PACSシステム稼動開始（6月） 病院10周年誌発行のため編集委員会を設置（7月） 病院で計画停電対応として自家発電装置改良工事を行った（7月） 原水爆禁止世界大会の報告集会在各院所で開催された（8月） 病院と汐田診療所で電子カルテ稼動開始（10月） 横浜市救急搬送受入れ病院連携支援モデル事業に参加（11月） 横浜市北部医療圏の増床申請を行う（11月） ヒューメディカ、汐田薬局開設準備委員会発足（11月） 「なくそう原発！123鶴見区パレード」に友の会、職員参加（12月）	3月11日三陸沖を震源とする最大震度7を観測する世界最大級の地震が発生、津波により福島第一原発で炉心溶融がおきた 4月には原発20キロ圏内を災害対策基本法に基づく警戒地域に設定し封鎖された 集団接種をめぐるB型肝炎訴訟で和解合意書に調印 2010年国勢調査速報で1人暮らし世帯が初めて3割を突破国民生活基礎調査では高齢者世帯が1000万世帯を突破、世帯総数比21%に上る貧困率も16%と過去最悪を更新 大江健三郎氏らが呼びかけた「さよなら原発集会」に6万人が全国から参加 混合診療禁止は適法との最高裁の判断が示される 印刷会社の労働者に胆管ガンでの労災請求相次ぐ ポリオの予防接種でまひをおこしづらい不活化ポリオワクチン承認される
2012年（平成24年）	
病院で外部講師を招いての「接遇」研修会開催（1月） NPOふれあい友の会が「食事会交流集会」開催（2月） 梶山診療所電子カルテ稼動開始（2月） 立川相互病院からの神経内科初期研修開始（2月） 「うしおだ診療所開設記念企画」として鶴見公会堂ホールで映画上映等（3月）	民主党は障害者自立支援法の廃止を見送り改正案を承認 4月診療報酬の改定が行われ、社会保障と税の一体改革案に基づき地域での医療介護の連携や在宅医療の充実に約1500億円を当てると発表全体の改定率は0.004%増

横浜勤労者福祉協会・汐田総合病院年表

協会・病院の動き	医療・社会・政治等の動き
<p>ヘルスクリニックの土地・建物の社会福祉法人うしおだへ譲渡(3月) 公益財団法人横浜勤労者福祉協会の最初の理事会が鶴見大学会館にて開催、運営規則、定款の改定等確認(4月) 汐田診療所廃止(4月) 汐田歯科診療所廃止(4月) 汐田ヘルスクリニック廃止(4月) 社福うしおだ「小規模多機能型介護事業所」の事業認可(4月) うしおだ診療所(こころとからだと歯)開設(5月) ヒューメディカ汐田薬局新築移転(5月) 病院「患者満足度調査」実施(6月) 横浜市の無料低額診療事業の監査を各院所で受ける(6月) 協会60周年記念事業委員会の設置を確認(7月) 関東地協水俣病検診に医師、看護師派遣(7月) 鶴見生活と健康を守る会が新事務所に移転(7月) 療養病床5床、回復期リハビリ病床7床認可、増床後261床に(一般104床、障害者49床、回復期リハ58床、療養病床50床) 病院増改築し協会本部、よこはま健康友の会本部、友の会新鶴見支部、NPOふれあい友の会新館1階に移転(24日法人住所変更、9月) 病院歯科が梶山診療所歯科を統合しリニューアルオープン(9月) 社会福祉法人本部、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、介護支援センターは旧ヘルスクリニックへ移設(9月) 社福うしおだ小規模多機能型介護事業所「コスモス」開設(10月) 社福法人設立10周年記念パーティー開催(12月)</p>	<p>介護職員処遇改善交付金3月末で廃止に 宜野湾市長選挙で普天間基地の閉鎖・撤退を求める伊波氏大健闘するも落選した 日本医師会、日本薬剤師会、日本歯科医師会など医療関連の40団体が「TPP参加反対総決起大会」開催 「原発再稼働決定を撤回せよ」首相官邸前行動、「さらなら原発10万人集会」には代々木公園に17万人を超える人が参加した 消費税関連8法案民主、自民、公明等の賛成多数で可決成立 12月に行われた総選挙で自民党は単独過半数を確保し3年ぶりに政権復帰した 風疹異例の大流行 日本病院協会の調査で4月の診療報酬改訂後の分析で赤字病院は前年の62.3%から5.3%増の67.6%に</p>
<p>2013年(平成25年)</p>	
<p>梶山診療所在宅往診を開始(4月) 病院医事課名称を患者サービス課に変更(4月) ヒューメディカ「梶山みついき薬局」開設(8月) みどり野介護支援センター廃止(9月) 社福「精神障害者グループホームハイムつばき」開設(10月) 病院院長に小澤仁医師就任(10月) ヒューメディカ矢向ビル着工(10月) 協会60周年記念の集いサルビアホールで開催(11月) 協会60周年記念式典・祝賀会開催(2014年2月)</p>	<p>自民党安倍首相TPP参加表明過去の侵略戦争を否定する首相発言に各国から批判続出 インターネットを使った選挙運動を解禁する改正公職選挙法成立 7月に行われた参議院選挙で自民・公明で過半数超え共産党は3議席から8議席へ躍進した</p> <div data-bbox="817 1653 1382 1973" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1129 1980 1382 2011">2013年5月の健康まつり</p>

資料編

公益財団法人横浜勤労者福祉協会概要

- 名称 ● 公益財団法人 横浜勤労者福祉協会
 所在地 ● 〒230-0001 横浜市鶴見区矢向一丁目6番20号
 最寄り駅：JR南武線【尻手駅】下車 徒歩10分
 TEL/FAX ● TEL：045-574-1013 FAX：045-574-1059
 設立 ● 1953年（昭和28年）12月1日
 役員等 ● 理事長：窪倉孝道、専務理事：大間知哲哉
 評議員：21名、理事：20名、監事：4名（2013年11月現在）
 事業所数 ● 病院：1、医科診療所：5、老人保健施設：1、計7
 共同組織の状況 ● 会員数：21,414世帯（2013年8月現在）
 職員数 ● 600名（2013年6月現在、協会グループ常勤数）

法人グループ

株式会社ヒューメディカ	横浜市鶴見区矢向1-5-24	045-642-6511
社会福祉法人うしおだ	横浜市鶴見区下野谷町4-163-1	045-508-7061
NPO法人ふれあい友の会	横浜市鶴見区矢向1-6-20	045-574-5051

神奈川県民主医療機関連合会（主要施設のみ掲示）

医療生協 川崎協同病院	川崎市川崎区桜本2-1-5	044-299-4781
医療生協 戸塚病院	横浜市戸塚区汲沢町1025-6	045-864-1241
医療生協 衣笠診療所	横浜市平作7-10-27	045-851-1062
医療生協 さがみ生協病院	相模原市南区相模大野6-2-11	042-743-3261
公益財団法人柿葉会 神奈川診療所	横浜市神奈川区新町15-6	045-441-0380
神奈川県医療事業協同組合	横浜市神奈川区鶴屋町3-35-1	045-320-2510
一般社団法人 メディホープかながわ	横浜市神奈川区鶴屋町3-35-1	045-624-8704

神奈川県医療福祉施設協同組合

紫雲会横浜病院	育生会横浜病院	国際親善総合病院
清水ヶ丘病院	日向台病院	聖ヨセブ病院
総合衣笠病院	総合湘南病院	曾我病院
総合相模更生病院	湯河原中央温泉病院	済生会神奈川県病院
済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	済生会平塚病院
済生会横浜市東部病院	鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院	
横浜市立みなと赤十字病院	秦野赤十字病院	津久井赤十字病院
十愛病院	横浜掖済会病院	神奈川診療所
衣笠診療所	聖隷横浜病院	

資料編

公益財団法人横浜勤労者福祉協会の病院、診療所、老健施設のご案内



汐田総合病院

医療・福祉・介護にわたる総合的なサービス提供を通して、患者様との協同、患者様の信頼と納得、無差別平等を追求します。



うしおだ診療所 (こころとからだと歯)

3つの診療所—精神科・歯科・内科等が鶴見区本町通に移転し、ひとところにて医療活動を展開しています。



うしおだ在宅 クリニック

在宅患者さんを中心とした診療を行なっています。



みどり野診療所

緑区十日市場にある診療所です。外来診療を中心に、健康診断、24時間在宅支援も行なっています。



梶山診療所

鶴見区三ツ池公園そばにある内科、整形、循環器、歯科、小児歯科の診療所です。糖尿病の特別診療を行なっています。



清水ヶ丘セツル メント診療所

保土ヶ谷区にある、内科中心の診療所で糖尿病特別診療、心臓病特診も行っています。健康診断、在宅往診にも力を入れています。



うしおだ 老健やすらぎ

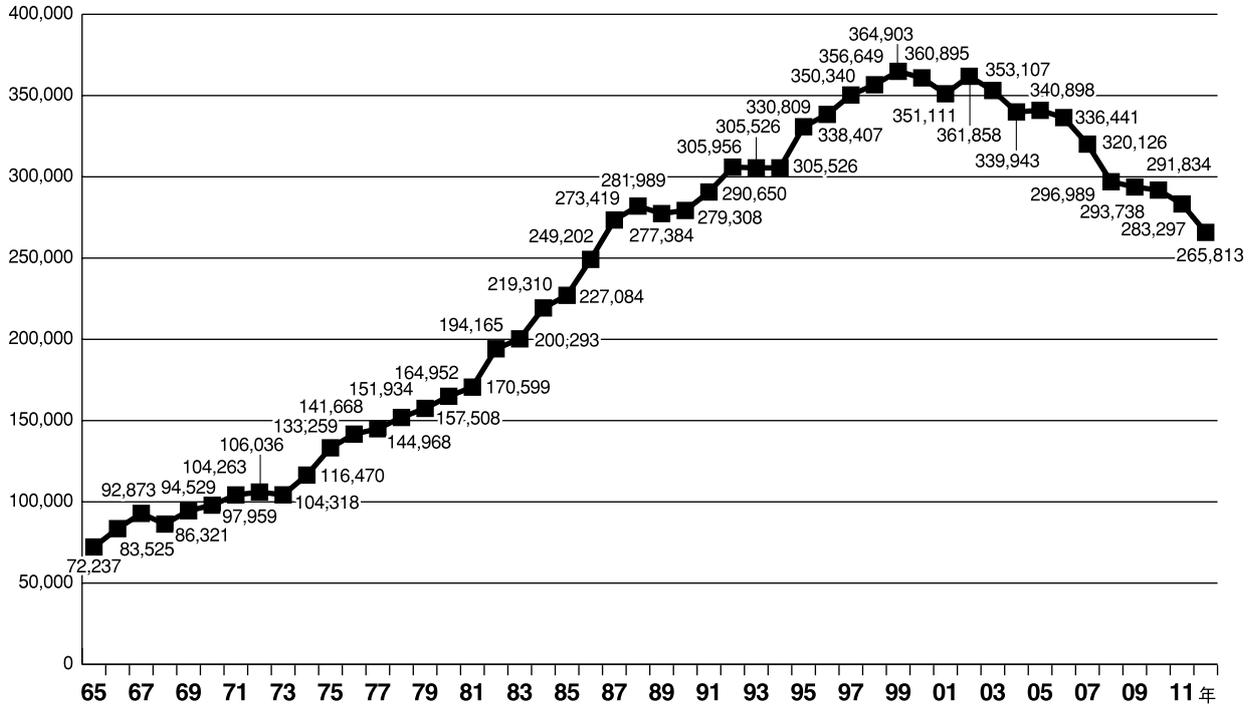
明るく、家庭的な雰囲気大切に—鶴見区唯一の介護老人保健施設です。

法人グループ施設

施設名	住所	電話番号
介護事業		
社会福祉法人うしおだ 本部	横浜市鶴見区下野谷町 4-163-1	045-508-7061
うしおだ介護支援センター	横浜市鶴見区下野谷町 4-163-1	045-504-6879
うしおだ訪問看護ステーション	横浜市鶴見区下野谷町 4-163-1	045-505-9537
ヘルパーステーションうしおだ	横浜市鶴見区下野谷町 4-163-1	045-505-9574
グループホーム菜の花の家	横浜市鶴見区下野谷町 3-120-2	045-502-0999
グループホームひまわりの家	横浜市鶴見区下野谷町 4-163-1	045-479-9875
小規模多機能こすもす	横浜市鶴見区下野谷町 4-163-1	045-504-4130
グループホームハイムさざんか	横浜市鶴見区下末吉 1-11-20	045-717-8815
訪問介護ステーション三ツ池	横浜市鶴見区矢向 1-5-28	045-582-0124
みどり野訪問看護ステーション	横浜市緑区十日市場町 915-14	045-989-2592
ヘルパーステーションみどり野	横浜市緑区十日市場町 915-14	045-989-2325
グループホームハイムつばき	横浜市鶴見区東寺尾 1-29-4	045-580-5023
福祉用具		
株式会社ヒューメディカ 本社	横浜市鶴見区矢向 1-5-24	045-642-6511
うしおだ福祉サービス	横浜市鶴見区矢向 1-5-28	045-717-5261
移動サービス		
NPO法人ふれあい友の会	横浜市鶴見区矢向 1-6-20	045-574-5051
相談事業		
鶴見生活と健康を守る会	横浜市鶴見区本町通 4-169-4	045-501-1056

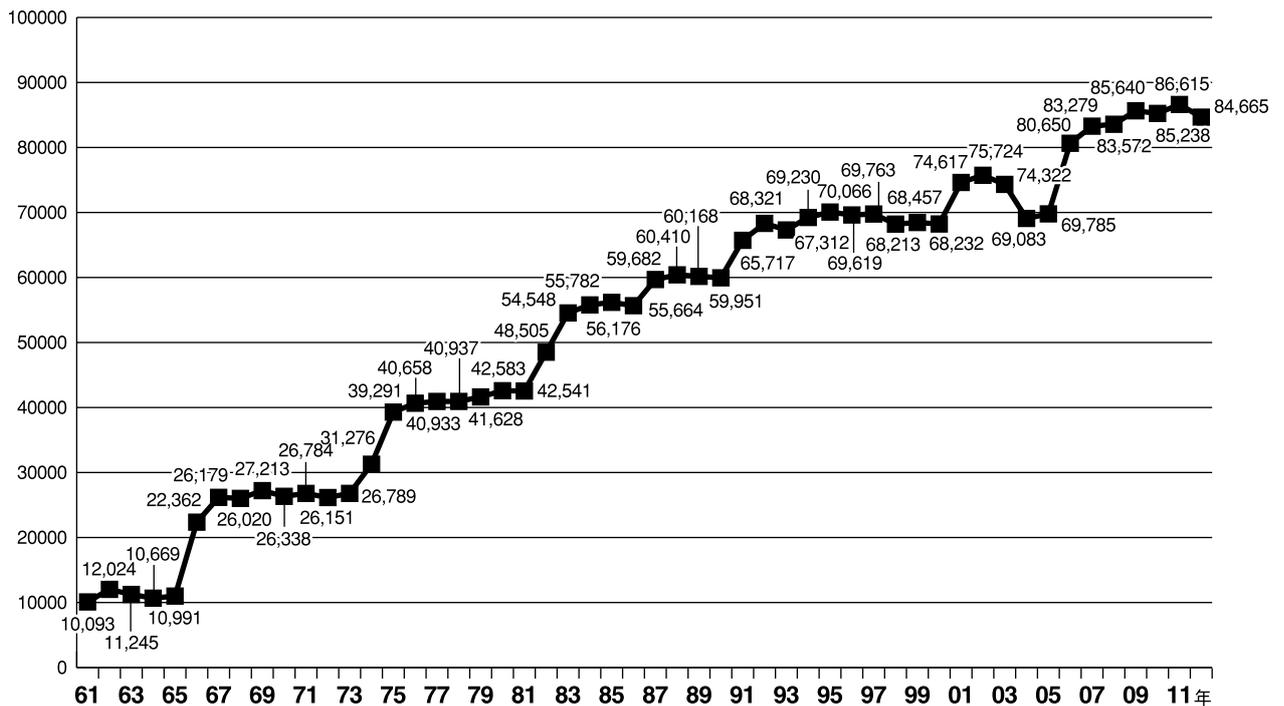
資料編

協会外来患者数推移



資料編

協会入院患者数推移



編集後記

この度、公益財団法人横浜勤労者福祉協会の創立60周年記念事業として記念年表「横浜勤労者福祉協会60年のあゆみ」を発行することになりました。1953年12月、桐山院長はじめ職員3名で汐田診療所としてスタートし、現在は汐田総合病院他5診療所、1老健施設になり、常勤職員も協会グループとして600人になりました。年表をまとめるに当り、年毎の出来事、写真を見ると決して容易な道ではありませんでした。激変する医療情勢やそれに伴う地域の医療ニーズに応えるために役職員の不屈の努力で発展させてきました。この様々な医療展開と事業に関わった職員の奮闘、職員を支え横浜勤労者福祉協会、病院への期待と夢を託してともに歩んだよこはま健康友の会会員のみなさん、いつも支援して頂いた地域の労働組合、民主団体の皆様に改めて感謝致します。

汐田診療所開設から60年間の軌跡をこの「横浜勤労者福祉協会60年のあゆみ」で参照していただき、今後の横浜勤労者福祉協会、汐田総合病院の医療活動に対して忌憚のないご意見を寄せていただければ幸いです。

年表

「横浜勤労者福祉協会60年のあゆみ」

60周年記念行事実行委員会

委員長／窪倉 孝道(理事長)

事務局長／大間知哲哉(専務理事)

事務局／赤堀 立明(協会総合計画事務局)

発行日／2013年12月1日

編集・発行／公益財団法人 横浜勤労者福祉協会(汐田総合病院)

